

「検証・『土佐の教育改革』  
子どもに関する実態調査」の  
結果と分析

高知県国民教育研究所

2006年10月

「検証・『土佐の教育改革』子どもに関する実態調査」の結果と分析

【目次】

はじめに	1
1 調査の概要	1
2 結果と検討	2
2 - 1 子どもの実態	2
2 - 1 - 1 選択回答項目より	2
2 - 1 - 2 自由記述より	3
2 - 2 部活動やスポーツ少年団について	4
2 - 2 - 1 選択回答項目より	4
2 - 2 - 2 自由記述より	5
2 - 3 保護者の経済状況について	6
2 - 3 - 1 選択回答項目より	6
2 - 3 - 2 自由記述より	7
2 - 4 学校で取り組むべき課題について（自由記述より）	8
2 - 5 「土佐の教育改革」について	8
2 - 5 - 1 「土佐の教育改革」の成果について（自由記述より）	8
2 - 5 - 2 「土佐の教育改革」の現状について（自由記述より）	9
資料編	
1 自由記述回答一覧	10
2 アンケート調査用紙	36

## 「検証・『土佐の教育改革』子どもに関する実態調査」の結果と分析

高知県国民教育研究所

### はじめに

「子どもが主人公」をスローガンとして始まった「土佐の教育改革」が10年を迎えた。高知県国民教育研究所（高知民研）としても、当初よりその動向に関心を寄せ、研究を行ってきた。今回、「土佐の教育改革」の検証時期を迎えるにあたり、高知民研として、子どもに視点をあて、この間の子どもの実態を独自に調査することになった。

本調査の目的はつぎのとおりである。

第1に、教職員から見た「子どもの実態」について現状と課題を明らかにする。

第2に、教職員から見た「スポーツ少年団・運動部活動の実態」について現状と課題を明らかにする。

第3に、教職員から見た「保護者の経済・生活状況」について現状と課題を明らかにする。

第4に、「学校教育の課題」についての教職員の意識を明らかにする。

第5に、「土佐の教育改革」についての教職員の意識を明らかにする。

なお、本調査は、教職員の教育現場におけるリアルな現状認識を明らかにするため、自由記述を重視したアンケートとなっている。資料編には自由記述回答をすべて掲載しているので、ぜひ参照してほしい。

### 1 調査の概要

本調査は、2006年4月に、高知県内の小中学校の高知県教職員組合（高知県教組）組合員を中心に対象に行ったものである。結果として120名の回答を得た。内訳は小学校86名（71.7%）、中学校34名（28.3%）である。回答者の属性を図表1（職種）と図表2（年齢）に示す。

図表1 職種

職種	全体	%	小学校	%	中学校	%
1. 校長	3	2.5	3	3.5	0	0.0
2. 教頭	4	3.3	3	3.5	1	2.9
3. 教員	98	81.7	68	79.1	30	88.2
4. 養護教員	4	3.3	4	4.7	0	0.0
5. 学校事務職員	10	8.3	7	8.1	3	8.8
6. 実習助手	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7. 現業職員	0	0.0	0	0.0	0	0.0
8. 栄養教諭・学校栄養職員	0	0.0	0	0.0	0	0.0
9. 寄宿舎指導員	0	0.0	0	0.0	0	0.0
10. その他	1	0.8	1	1.2	0	0.0

図表2 年齢

年齢	全体	%	小学校	%	中学校	%
1. 10歳代	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2. 20歳代	2	1.7	2	2.3	0	0.0
3. 30歳代	9	7.5	7	8.1	2	5.9
4. 40歳代	77	64.2	54	62.8	23	67.6
5. 50歳代	32	26.7	23	26.7	9	26.5
6. その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0

## 2 結果と検討

### 2 - 1 子どもの実態

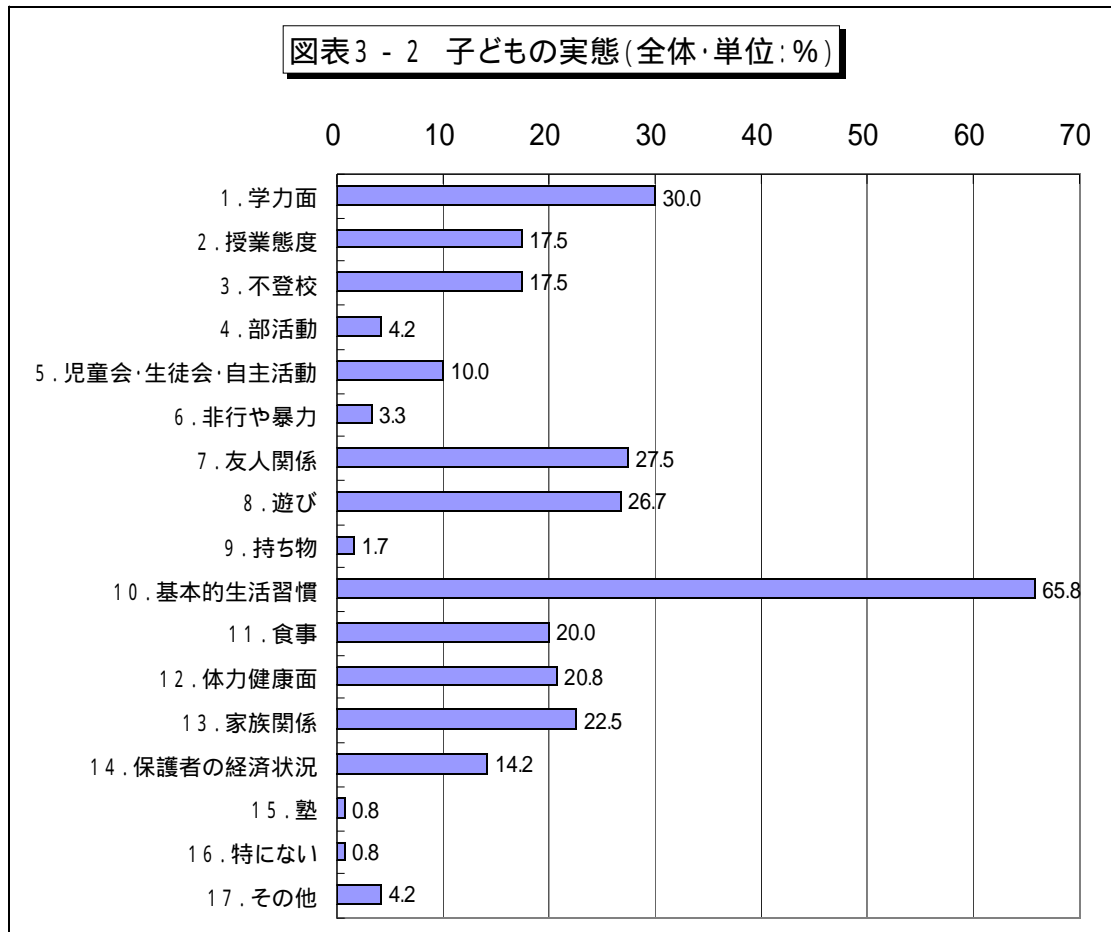
#### 2 - 1 - 1 選択回答項目より

調査項目5「あなたが、最近の子どもの実態において、特に問題だと感じることは何でしょうか。3つ選んでください。」の結果を図表3 - 1、3 - 2に示す。

図表3 - 1 子どもの実態

	全体	%	小学校	%	中学校	%
1. 学力面	36	30.0	19	22.1	17	50.0
2. 授業態度	21	17.5	17	19.8	4	11.8
3. 不登校	21	17.5	7	8.1	14	41.2
4. 部活動(加入や活動の状況、指導等)	5	4.2	0	0.0	5	14.7
5. 児童会・生徒会・自主活動(積極的な活動となっているか)	12	10.0	5	5.8	7	20.6
6. 非行や暴力	4	3.3	3	3.5	1	2.9
7. 友人関係	33	27.5	21	24.4	12	35.3
8. 遊び	32	26.7	24	27.9	8	23.5
9. 持ち物	2	1.7	1	1.2	1	2.9
10. 基本的な生活習慣	79	65.8	66	76.7	13	38.2
11. 食事	24	20.0	21	24.4	3	8.8
12. 体力健康面	25	20.8	22	25.6	3	8.8
13. 家族関係	27	22.5	18	20.9	9	26.5
14. 保護者の経済状況	17	14.2	11	12.8	6	17.6
15. 塾	1	0.8	0	0.0	1	2.9
16. 特になし	1	0.8	1	1.2	0	0.0
17. その他	5	4.2	4	4.7	1	2.9

図表3 - 2 子どもの実態(全体・単位:%)



全体では「10. 基本的な生活習慣」(65.8%)が極めて高く、続いて「1. 学力面」(30.0%)、「7. 友人関係」(27.5%)、「8. 遊び」(26.7%)が高くなっている。

小学校では「10. 基本的な生活習慣」(76.7%)が極めて高く、「8. 遊び」(27.9%)、「12. 体力健康面」(25.6%)、「7. 友人関係」(24.4%)、「11. 食事」(24.4%)が比較的高い。

中学校では「1. 学力面」(50.0%)、「3. 不登校」(41.2%)、「10. 基本的な生活習慣」(38.2%)、「7. 友人関係」(35.3%)が高く、「13. 家族関係」(26.5%)、「5. 児童会・生徒会・自主活動(積極的な活動となっているか)」(20.6%)が比較的高くなっている。

小学校で極めて高くなっている「基本的な生活習慣」の改善は、他の上位項目の課題と重なる部分が大い。一方、中学校では「基本的な生活習慣」とともに、学力問題や不登校が重要な課題となっている。ここでも中学校問題の課題の一端が明らかになっている。

### 2 - 1 - 2 自由記述より

調査項目6「5に関連して、子どもの実態について具体的な例をお書きください。」について自由記述を分析した(回答数は89)。自由記述を分類・類型化することにより、以下の4つのことが明らかになった。

第1に、「夜型の生活リズムになり、睡眠不足の児童が多くなっている。」「朝食を食べてこず、夜ふかしをするので、朝からグラッとしてやる気がない。家で受け入れてもらえず、教員にすごく甘える。」といった「基本的生活習慣」に関する記述が36(40.4%)と最も多い。

第2に、「外遊びはあまりできておらず、ゲームやテレビ視聴時間が長く、自然の中で体験が少ない。又、友だちとの関わりも少なくなっていること。」「遊びがゲームに片よっている。せっかく友達が集まっても、個々にゲームをしたり、マンガを読んだり集団遊びがない。」といった「遊びや人間関係」に関する記述が30(33.7%)と多くなっている。

第3に、「親が定職についてないため、経済的に苦しい家庭が多い。ゲームをして、夜寝る時刻が遅いため朝食抜きで学校に来る。」「話をきけない。やる気がない子が目立つ。全体的におさない。平気で傷つけることばをなげかけ、争いごとになる。自分が言われると非常に怒る。家族関係が原因であるが、親が子どものしつけに手が負えない状態。」といった「家庭環境」に関する記述が20(22.5%)となっている。

第4に、「学力定着について二極化がすすみ、分からない子どもはまったく分からないという状態になっている。」といった「学習」に関する記述が10(11.2%)となっている。

その他、上記ともかかわるが、子どものコミュニケーション不足や体力低下を指摘している記述や、子どもが自主的な活動をするゆとりがないといった指摘も複数見られた。

## 2-2 部活動やスポーツ少年団について

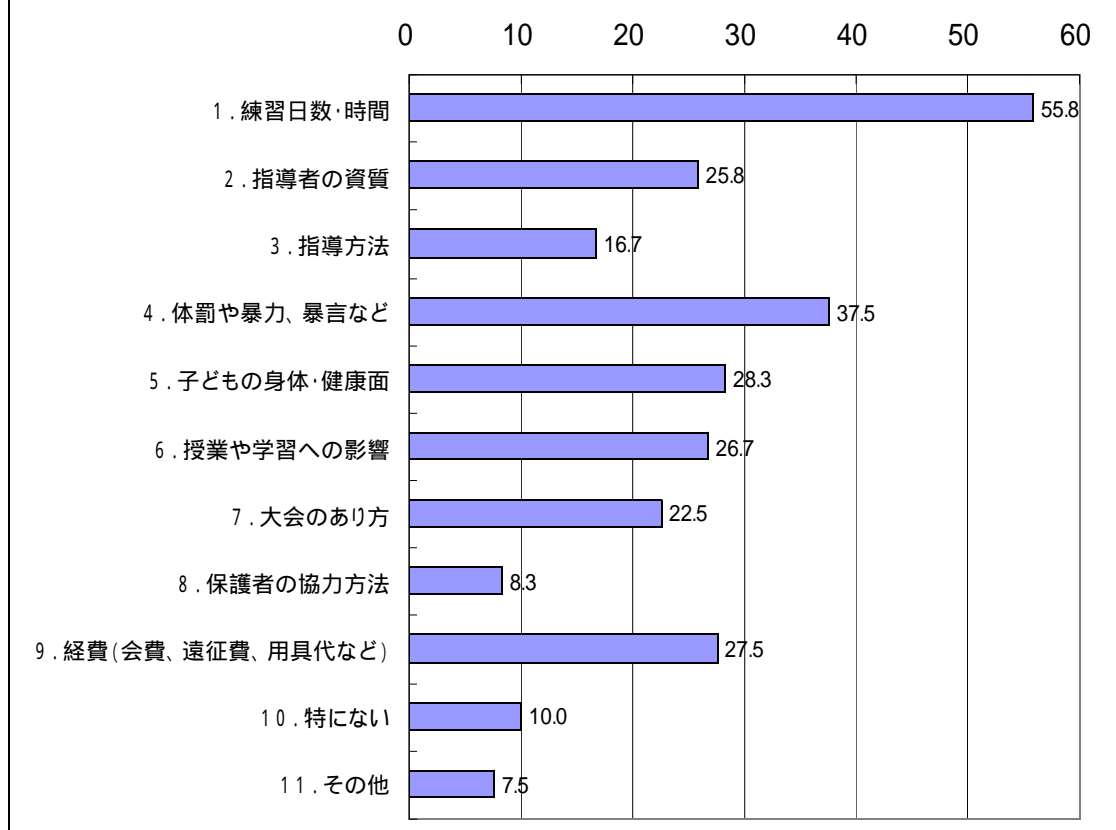
### 2-2-1 選択回答項目より

調査項目7「子どもの部活動やスポーツ少年団の活動において、特に問題だと感じることは何でしょうか(部活動の顧問でない方もお書きください。いくつでも選んでください)。」の結果を図表4-1、4-2に示す。

図表4-1 部活動やスポーツ少年団について

	回答数	%	小学校	%	中学校	%
1. 練習日数・時間	67	55.8	45	52.3	22	64.7
2. 指導者の資質	31	25.8	20	23.3	11	32.4
3. 指導方法	20	16.7	16	18.6	4	11.8
4. 体罰や暴力、暴言など	45	37.5	38	44.2	7	20.6
5. 子どもの身体・健康面	34	28.3	24	27.9	10	29.4
6. 授業や学習への影響	32	26.7	25	29.1	7	20.6
7. 大会のあり方	27	22.5	14	16.3	13	38.2
8. 保護者の協力方法	10	8.3	3	3.5	7	20.6
9. 経費(会費、遠征費、用具代など)	33	27.5	18	20.9	15	44.1
10. 特にない	12	10.0	8	9.3	4	11.8
11. その他	9	7.5	6	7.0	3	8.8

図表4 - 2 部活動やスポーツ少年団について(全体・単位：%)



全体では、「1. 練習日数・時間」(55.8%)、「4. 体罰や暴力・暴言など」(37.5%)が特に高くなっている。続いて「5. 子どもの身体・健康面」(28.3%)、「9. 経費」(27.5%)、「6. 授業や学習への影響」(26.7%)、「2. 指導者の資質」(25.8%)が高くなっている。

小学校では、スポーツ少年団の活動についての回答だと思われるが、「1. 練習日数・時間」(52.3%)、「4. 体罰や暴力・暴言」(44.2%)が特に高くなっている。

中学校では、運動部活動についての回答だと思われるが、「1. 練習日数・時間」(64.7%)、「9. 経費」(44.1%)、「7. 大会のあり方」(38.2%)、「2. 指導者の資質」(32.4%)、「5. 子どもの身体・健康面」(29.4%)と高い項目が多くなっている。

### 2 - 2 - 2 自由記述より

調査項目8「7に関連して、部活動等に関する問題点について具体的な例をお書きください。」について自由記述を分析した(回答数は65)。自由記述を分類・類型化することにより、以下の3つのことが明らかになった。

第1に、「くらくらするまで、連日やっている子ども会はどんなものか。冬になって寒くなくても大会がある。大会が多すぎるように思う。休むたびに大会があると、つかれを残

して一週間がスタートしてしまう。」、「1日の練習時間が長く、家に帰ってからの生活にゆとりがない。当然家庭学習の時間も少なくなっている。」といった「日数・時間」に関する記述が35(53.8%)と過半数を占めている。

第2に、「土日の練習遠征等で月曜日休みがちな児童の存在。児童の荒れた言動の一因として指導者の体罰、暴力があるのでは。」、「生徒指導上の重要な位置を占める部分が多いが、民主的ではなく、「力」の指導が多い。」といった「指導者」に関する記述が23(35.4%)と多くなっている。これには、指導者の体罰・暴力といった問題、また指導者(顧問)の権限が強すぎることで、さらに指導者不足や指導における専門性の問題等も含まれている。

第3に、「子どもたちの身体の発達を助けるプログラムであるべきだが、その視点がないため、勝つだけのための練習は、障害を助長しているようだ。」、「指導が科学的ではない。長くやればうまくなるという指導。参加する児童・生徒が運営に参加できる体制がない。」といった「活動内容・姿勢」に関する記述が15(23.1%)となっている。

その他、「練習の始まりが、指導者の都合で7時から7時30分開始になるので、終了も自然と遅くなり、睡眠不足となり、朝もあくびが出たり、涼しい所へ行って寝ころんでいる(朝から)子ども達もいる。授業中も集中力がなく忘れ物も多い。土日の疲れが全部月～金に表れている。どちらが本務かわからない時がある。そしてこの子ども会に、保護者や地域が過熱状態である事に非常に危機を感じている。」、「中学校(公立)は、教員・保護者共に、部活動中心に考えすぎる傾向があると思う。学校でという体制では、生徒のやりたい活動がかなり限定される条件になっている。学習と両立できる体制かどうか、意識も含め疑問。」、「経費の負担が部活担当の教職員には重くないだろうか。教師には代休があるが生徒にはない。専門の経験がある教師がいない時について、学校外からコーチを呼んでやるのが一般的にできないだろうか。」、「中体連の質というか、教師の中にも縦の関係が横行しており(特に野球・バレー等)“上のもののいうことは聞かなければならない”という感覚を子どもたちにも押し付けている(実体として)。練習や練習試合などの計画について、子どもの意見はとり入れられないケースが多い。」といったような、現状のスポーツ少年団や中学校における運動部活動の抱える構造的な問題点を指摘している回答もある。

## 2-3 保護者の経済状況について

### 2-3-1 選択回答項目より

調査項目9「保護者の経済状況について、特に問題点だと感じることは何でしょうか。」の結果を図表5-1、5-2に示す。

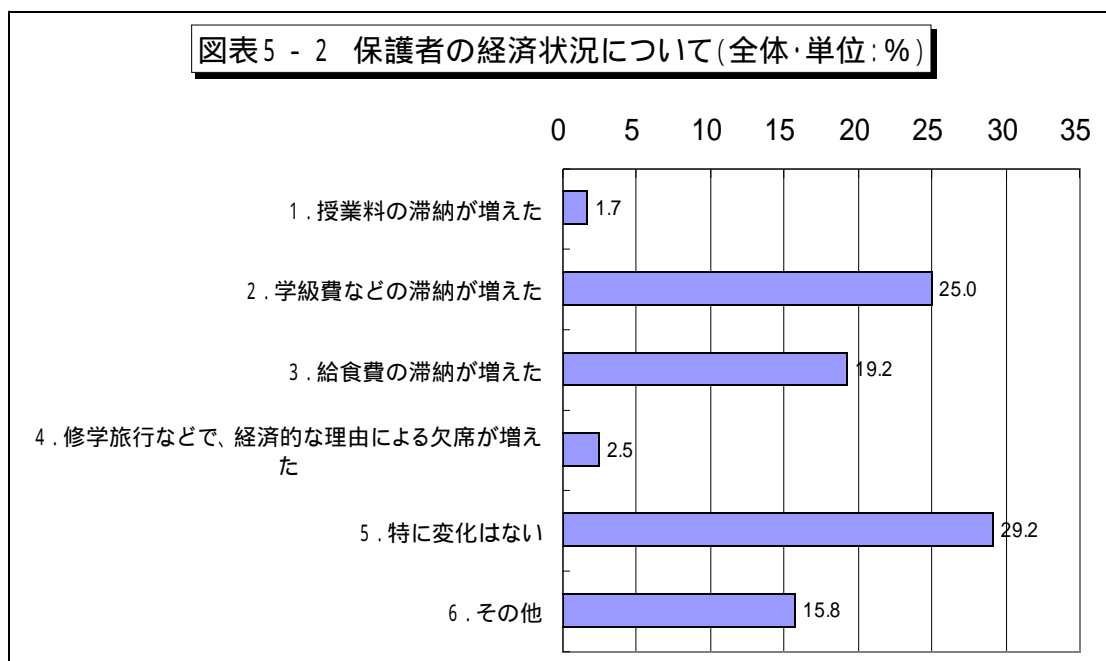
全体では、「2.学級費などの滞納が増えた」(25.0%)、「3.給食費の滞納が増えた」(19.2%)が高くなっている。小学校では「3.給食費の滞納が増えた」(22.1%)が、中学校では「2.学級費などの滞納が増えた」(35.3%)が高くなっている。



図表5 - 1 保護者の経済状況について

	回答数	%	小学校	%	中学校	%
1. 授業料の滞納が増えた	2	1.7	0	0.0	2	5.9
2. 学級費などの滞納が増えた	30	25.0	18	20.9	12	35.3
3. 給食費の滞納が増えた	23	19.2	19	22.1	4	11.8
4. 修学旅行などで、経済的な理由による欠席が増えた	3	2.5	2	2.3	1	2.9
5. 特に変化はない	35	29.2	28	32.6	7	20.6
6. その他	19	15.8	14	16.3	5	14.7

図表5 - 2 保護者の経済状況について(全体・単位:%)



### 2 - 3 - 2 自由記述より

調査項目10「9に関連して、保護者の生活・経済状況の実態について具体的な例をお書きください。」について自由記述を分析した(回答数は41)。自由記述を分類・類型化することにより、以下の2つのことが明らかになった。

第1に、「お父さんが失業中で集金がなかなか払えない家庭もあった。」「年収が減り、又、共働であったが、一時的に一方はパート等もなくなり、学級費が数ヶ月滞納となる。」といった、保護者のおかれている「雇用」の厳しい実態に関する自由記述が15(36.6%)となっている。

第2に、「一家の働き手であるご主人の病気で収入が全くない状況になっている家庭がある。準要保護の認定が受けられなければ修学旅行は、欠席とのこと。離婚によって、母親が数人の子供さんを養育しているが、経済的にかなり厳しい状況。」「準要保護家庭が多くなっている。教材費、部活動の経費等、親の負担が多くなり、パートの片親の収入だ

けでは大変な面がある。」といった、保護者のおかれている「家庭環境」の厳しい実態に関する自由記述が14(34.1%)となっている。

その他、電話がはずされ連絡がとれなくなったケースや、子どもが下の子どものおもりをしたり、親を手伝っているといったケース等、保護者や子どものおかれている生活・経済状況の厳しさが明らかになった。

## 2-4 学校で取り組むべき課題について(自由記述より)

調査項目11「今勤務している学校で取り組むべき課題を3つあげるとしたら何がありますか。」について自由記述を分析した(回答数は総計200)。自由記述を分類・類型化すると、「学力向上」に関するものが36(18.0%)と最も多く、ついで「基本的生活習慣の確立」18(9.0%)、「多忙化解消」15(7.5%)、「保護者・地域との連携」14(7.0%)、「子どもの自治力の向上」13(6.5%)、「教育の条件整備」11(5.5%)となっている。

## 2-5 「土佐の教育改革」について

### 2-5-1 「土佐の教育改革」の成果について(自由記述より)

調査項目12(その1)「県教委は、これまでの成果として、「開かれた学校づくり等が機能し始めた」、教職員に子どもたちが主人公という意識が定着、教職員団体と県教育委員会の関係が、対立から協働へ変化、明確な目標を持った学校づくりの広がり、国公立大学進学者数が増加等をあげていますが、これに関してどういう感想をお持ちですか。」について自由記述を分析した(回答数は64)。

自由記述を類型化すると、以下の4点に関して、県教委のあげる成果あるいは教職員の意識に対する批判的意見が見られる。

第1に、「(教職員団体と県教委の関係が、対立から協働へ変化)をたてに、一緒に場で話したからという理由から何でもかんでも現場に持ち込んできているように思う。そのために現場がしんどくなっているように思う。」「(教職員団体と県教委の関係が、対立から協働へ変化)については、実感なし。賃金や人事評価など、労働条件に関することでは、県教委に押し切られっ放しという感じ。」といった、「教育行政」(県教委の施策)に関する批判的意見が21(32.8%)と非常に多くなっている。

第2に、「(教職員に子どもたちが主人公という意識が定着)については、教師ひとりひとりが子どもたちが主人公という意識を持ちたくても、持てない状況に置かれているのではないのでしょうか?それは、年々強まる管理教育、人事評価、多すぎる官制研修、雑事雑務で教師は自ら考えるエネルギーやゆとりを奪われているように思います。教師一人ひとりがもっと信頼され、自分たちが本当に実践したい教育のできる環境づくりが今一番大切だと思います。」「子どもたちに関わる時間を減らさざるを得ないような提出文書などが増えたような気がする。説明責任ばかりに重さが置かれ、本来主人公である子どもたちに関わる時間が減らされている。」といった「多忙化」の現状に対する批判的意見が16(25.0%)と多くなっている。

一方で、第3に、「(教職員に子どもたちが主人公という意識が定着)少なくとも、今の職場では、子どもが主人公という意識は薄いと思う。」「(教職員に子どもたちが

主人公という意識が定着)に関しては、果たして子どもたちが主人公という意識が定着しているとは思えません。教育実践そのものが、それを意識したとりくみになっているとは思えないからです。」というように、「土佐の教育改革」の最大の特徴である「子どもが主人公」という点について、教職員の「意識」がまだ不十分だという意見が5(7.8%)となっている。

また、第4に、「形だけで、それまで自然にできていたことが、こわされた気がします。残念だけど。」、「子どもが主人公との意識を持って教育にあたってきたのは、別に土佐の教育改革以降というわけではなく、数十年前の教職員の先輩方はもっとその意識を強く持って指導されていたように思う。」というように、「開かれた学校づくり」については、「以前」から行ってきたという意見が5(7.8%)となっている。

### 2-5-2 「土佐の教育改革」の現状について(自由記述より)

質問項目12(その2)「県教委は、現状として 教育環境の悪化(構造的な経済不況、大人社会のモラルの混乱、地域の共同体意識の希薄化)、学校間で改革の取り組みに温度差(開かれた学校づくり等)、子どもたちの学習意欲の低さ、家庭での学習時間の少なさ、中学校での学力低下(到達度把握検査結果が全国平均を下回る)、高等学校での学力の底上げが不十分(大学進学者数は増加するものの中途退学率が高水準)、いじめ、暴力行為、不登校などの発生件数が依然として憂慮される状況、をあげていますがこれに関してもどのような感想をお持ちですか。」について自由記述を分析した。これは、2-5-1と同様の傾向を示している(回答数は60)。

第1に、「30人学級や教職員定数の増加などが実現すれば、1人1人の子どもへ行き届いた教育や、教材研究などが、もっとできるようになると思います。」、「現状認識についてはほぼこの通りだと思う。ただ、問題の解決に数値目標をかかげて追求させたり、全ての責任を学校現場に転嫁することは許されないと思う。現場が頑張れるように、県教委は条件整備に全力を注ぎこむことを望みたい。」といった、教育行政への期待が21(35.0%)とかなり多くなっている。そのなかでも、「新しい人事評価制度」に対する批判的意見が多くなっている。

第2に、「現状認識としては正しい。しかし、その背景がまともに理解されておらず、見当違いの対策ばかりが強引に繰り広げられ、現場は苦しみ、子どもは萎縮し、保護者の学校不信は拡大している。最も憂慮すべきことは、小学校卒業段階での燃え尽き。「学力向上」のために、正規の授業でもドリル学習等でガンガン鍛えられ、他方では「開かれた学校づくり」のために、地域とかかわる行事がやたらに増えて、自分の頭で主体的に考えて物事に取り組むゆとりがなく、ただ「やらされる」だけ、まるで意欲を失っている。これでは中学校が荒れるのは当たり前。校種を問わず、不登校が増えるのも当たり前。」といった「多忙化」の解消を求める意見が12(20.0%)となっている。ここでは、教職員だけでなく、子どもや保護者の多忙を問題とする回答が目立った。

### 謝辞

本調査にご協力いただいた教職員の方々に、心から感謝の意を申し上げます。

## 資料編

### 1. 自由記述回答一覧

5. あなたが、最近の子どもの実態において、特に問題だと感じることは何でしょうか。3つ選んでください。(その他の回答)

- ・スポーツクラブ(小)
- ・10と14の関連性も多少ある。ない家庭もあるが。(小)
- ・テレビ、ゲーム(小)
- ・子どもの未来(小)
- ・遊びが激しいのでケガも多い。(中)

6. 5に関連して、子どもの実態について具体的な例について具体的な例をお書きください。\_

- 小学校
- 1 学習用具が準備できない
  - 2 小規模校では人数が少なく、子ども同士の精神的な鍛え合いが少ないので、我慢で自己中心的な児童が見られる。
  - 3 朝食を食べてこず、夜ふかしをするので、朝からダラッとしてやる気がない。家で受け入れてもらえず、教員にすごく甘える。
  - 4 外遊びはあまりできておらず、ゲームやテレビ視聴時間が長く、自然の中での体験が少ない。又、友だちとの関わりも少なくなっていること。
  - 5 子ども同士、外でおもいきり遊ぶということがへってきている。家の中で個々にゲーム機をもって遊んでいるなど、会話があまりないし、子ども同士のぶつかり合いの場がなくなってきたように感じます。
  - 6 朝食をしっかりとっていない子(田舎にもかかわらず)がいることが気になる。
  - 7 遊び方がゲーム中心になることが多い(自然の中での遊びが少ない)。授業中じっとすわることができない。忘れ物、家庭学習等基本ができていない子が多い。
  - 8 朝食ぬき。走・跳・技の記録の低下。
  - 9 歩くことが少ない。ゲームをする時間が多い。子どもの生活より自分の楽しみ、生活を優先させてしまう親が増えている。
  - 10 夜更かしの子が多く、朝の目ざめが悪い。そのため1,2時間め頭が働いていないような気がする。
  - 11 欠食や偏食の子ども、睡眠不足の子どもが気になる。
  - 12 自分の気持ちを伝えられなくて泣いたり、すねたりする児童が中学年ぐらいになってきている。休日の生活が、平日と比べ、朝ねぼう、夜ふかしがひどい(もちろん平日でも深夜まで起きている子もいる)。肥満が多く、持久力、特に長距離走などが続かない。子どもたちを動かすことがむずかしい(運動させること)。

- 13 親の生活に左右されて、生活リズムが乱れている子どもが多い。外で運動したり遊んだりする時間が少ない。
- 14 遊びがゲームに片よっている。せっかく友達が集まっても、個々にゲームをしたり、マンガを読んだり集団遊びがない。朝起きて、顔を洗って、朝食をとって・・・といったあたり前のことができていない。夜、異常におそくまで起きている。すぐつかれてぐたっとしている。せぼねがまがったしせいでノートをとる。
- 15 日常生活の気になる点が授業にそのまま影響している感じがします（ゲームの話が多い。落ち着いて話がきけない）。
- 16 外遊びをしない。ゲームづけ。精神的弱さ、がんばりがきかない。
- 17 話をきけない。やる気がない子が目立つ。全体的におさない。平気で傷つけることばをなげかけ、争いごとになる。自分が言われると非常に怒る。家族関係が原因であるが、親が子どものしつけに手が負えない状態。
- 18 伸びやかでないものを感じます。大人の社会もそうなのでしょうね。固定化されたせまい関わりの中でいじめもおこりやすいように思います。夜行型の家庭がふえました。体が整いません。地域のスポーツクラブで子どもたちはくたくたです。
- 19 新1年生を受け持っていますが、「タマゴッチ」というおもちゃを3つも4つも持っていて、「オヤジッチ」になったとか「オジッチ」になったとか、友だちと会話している。お弁当のおかずが好きなものばかりだと早く食べれるが、嫌いなものが入っているとなかなか食べ終わらない。
- 20 外で元気に遊ぶ姿よりテレビゲーム。あいさつ。朝食を食べて来ない子が増加。
- 21 社会的マナーが身に付いていない。
- 22 子どもの生活が夜型になりつつある。親の生活時間になることが多い。9時以降のテレビ。
- 23 保護者間の意志疎通がうまくいっていないため、子ども同士の問題があったときの指導までも難しくなっている。
- 24 こどもが集まってもカードゲームや体をつかわない遊びばかりで、授業中も45分間じっとすることができていない。何かが？
- 25 授業中にしたくない時はうろうろと席たちをする。すぐ友達とトラブルになるが、言いたいことを伝えられない。ごかいが多い。
- 26 自分の気もちを出せなくて、友人関係がうまくいかない。会話がきちんとできない。
- 27 テレビなどの報道や趣向に追われて、単一な行動や意見しか持てなくなっているのではないか。
- 28 夜型の生活リズムになり、睡眠不足の児童が多くなっている。
- 29 落ち着きがない。塾などでいっぱいいっぱいになっているので、学校が発散の場。健康な人間関係がもちにくい(女子に多い)。言葉づかいやマナーが身につけてない。
- 30 世の中の「勝ち組・負け組」の風潮が直接、家庭や子どもたちに大きく影響している。構造改革のつけは結局弱い立場の国民の犠牲の上に成り立っているだけではない。

- 31 集中力、根気の欠けた子どもが増えたように感じる。「がまんすること」が生活の中から体験的にすくないのでは？と思う。
- 32 今年受け持った子に、全く学校に来れない子がいるので、気になる。「めんどくさい」という男子。体がみんな硬い。
- 33 ゲーム時間が長すぎて、寝不足の子がいる。テレビの内容がひどすぎる。それに慣れて、人の失敗を笑う。
- 34 教師が忙しくて個別指導をしてあげたくてもなかなかとりにくいし、子どもも時間に追われているよう。子どもの異年齢集団が形成されにくい。
- 35 今年1年生を久しぶりに担任して、あらためて家族のあり方や生活習慣の大切さを痛感しているから。
- 36 朝から「ねむい、ねむい」と言う。また、朝食を食べていない。外で元気よく遊ぶ子どもが減り、体力面、友人関係が不足(学校以外)。
- 37 朝食をたべていない子ども。夜ふかし。ゲームづけ。
- 38 話を聞くなど基本的なことができなく、授業に支障をきたす。
- 39 親との温かい関係が築けていない子どもたちは、学習に対しても意欲がなく(わかず)、学習も身につかない。
- 40 離婚家庭が増えてきた。食事の質(朝食パン一枚)。子ども中心ではなく親中心の生活の傾向(例えば、親の趣味につき合わせる)。
- 41 朝からボーっとしている子ども。集中力に欠ける。
- 42 夜ふかしをして、昼間眠いと訴える。
- 43 学習したことが定着しにくい。学習意欲が低く、集中力が持続しない。自治的な活動が困難。
- 44 就寝時刻が遅いために、次の日の授業に集中できにくい。
- 45 自ら作り出すことが苦手(遊び)。受身。食の偏り。テレビ・ゲーム類の視聴時間の多さ。
- 46 朝食をとらない。寝るのが遅い。落ち着いて話が聞けない。
- 47 就寝時間が遅く、朝からあくびが出たり、ダラダラしている。子ども会のバレーの練習等で夜遅く帰宅する事が多く、遅い子で12時近い。他の子ども会の子どもも、10時をすぎている。まさに睡眠不足であり、食事も他の子どもであるが、毎日パンだけの子どももいる。
- 48 できる子もいるのだけれど、マラソンや100m走、逆上がり等、作業を含め体力がないなど感じる。
- 49 落ち着きに欠け、手遊びが多い。目を見て聞けない。友だちの良さより、欠点に目がいってしまう。学校におくれても平気、わがままいっぱい。
- 50 親が定職についてないため、経済的に苦しい家庭が多い。ゲームをして、夜寝る時刻が遅いため朝食抜きで学校に来る。
- 51 特になし。
- 52 学力が両極端(ニコブ)なっている。児童の幼稚化？
- 53 夜型の子どもが増えている。朝食を食べて来ない子ども、食べても内容が不十分な子どもが多くなった(例、菓子パン、バナナ、食パンだけ、インスタントみそ汁など)。

- 54 授業をする中で、聞く、45分すわっている事などができにくい。
- 55 極小規模校で、同級生のいない異年齢集団。仲は良いが、休日等に集まって遊ぶことがない。
- 56 睡眠時間が十分とれていないまま登校してくる児童の増加。
- 57 外で遊ぶことが少ない(テレビ・ゲーム)。離婚等夫婦のトラブルが増加。
- 58 給食費、教材費の未納(年度をこえての)がでてきており、学校としてどこまで子どもの学習権を守れるのか、心配になっている。
- 59 自然とふれ合わない。人と接しない。人工的な遊び。すいみん不足。朝食を取らない。食事の片より。
- 60 遊びを通じて人間関係のあり方を学んだり、体力の向上がのぞめなくなっている。また、夜更かしをしている児童も多い。食べることを含めて、そういった人としての基本的なことがおろそかになっていることが、やる気・根気のなさに通じてるところが大きいように思う。
- 61 遊び相手だが、友情や思いやりが欠如している。
- 中学校 62 自分の勤務校ではさほどでもないと思うが、便利になりすぎて遊びや食事に影響が出ているのでは。学力面では漢字テストで100点がとれても、日常生活で基本的な字が使えないなど。
- 63 人間関係の結び方が下手 - 苦手になっているようだ。
- 64 主張できない、又はできる場面でしか主張しない。(ただの反抗)ゲームで暮らしている。ケータイで遊びすぎ(キケン)子どもに無関心であったり、忙しくて子どもが見えない親が多い(増えた)のでは？
- 65 文章を読みとる力が弱い。自分の思いをきちんと言葉にして表現することができない。
- 66 子ども同士のかかわり(コミュニケーション下手)
- 67 学校に来れない生徒がいる。
- 68 基本的生活習慣のくずれが、学力面をはじめ多方面に影響を及ぼしていると感じる。
- 69 家庭や親の生活状態によって、子どもの精神面に大きな影響を与えていると感じる。情緒不安定、学力など。
- 70 自治的な生徒会活動をするには、時間的余裕がほとんどない。自治をするには時間的保障が生徒にも教師にも必要！
- 71 1, 授業時数と教育課程内容のアンバランス 3, 多い 5, 指導者の意識の低さ 7, 人づきあいが下手
- 72 体育系の部活動で教師のいうままに動かされる(動かす)傾向があり、その影響が子どもたちの中にも出る場合がある。(上下関係、いじめ)自立の力にはつながらない。
- 73 小、中学生で、ケータイを持っているのも普通になってきているが、料金のことでトラブルが起きている。「こんなに使っていないはずなのに・・・」
- 74 学力 = 基本的生活習慣 = 家族関係
- 75 小さな学校なのに不登校生徒と予備軍を含めると2~3人いる。保護者の半数近く

は就学費援助を受けている。

- 76 かんたんな計算(2ケタのたし算、ひき算、かけ算)にミスがおこる。見直しをしようとしめない。意欲にかける。遊びが家でのテレビゲームになっている。友人関係がそういう友人関係にかざられている。
- 77 集金がなかなかできない。学校の用具、部活の服装など。しんどい、嫌だから不登校。明るい不登校型の増加。仲間づくりが不得意なので、交わりが不十分でトラブルが起きやすい。
- 78 中学三年の休み時間の遊びが小学生のように走り回っている。
- 79 子どもの家庭環境が複雑になってきている。特に親が離婚している家庭が多くなり、経済的にも困っている例が多い。
- 80 小さい頃、戸外で遊ぶ事が少なくなった事により、友達関係、人間関係を築く事が苦手になり、また、体力の低下にもつながっている。
- 81 仲間関係がうまく作れない。コミュニケーションの仕方が身についていない。問題解決能力(友人間のトラブル等が特に)不足。夜ふかして朝起きられない。親子の人間関係がうまく作れていない。
- 82 親が親としての責任を持たず、子どもが生活、学力とも本来持っている力を家庭でつけることができている。結果、入試等においても、落ち着いて取り組めず失敗する例。
- 83 小規模校であるにもかかわらず、家庭的な問題を持っている生徒の割合が高い(母子・父子、祖父母家庭、他)。
- 84 学習を中心とした生活習慣がついていない。食事面でも夜おそくまで起きており、朝起きることができず、朝食をぬかす等。
- 85 夜ふかし多く、TVの時間多く、家庭学習時間少。遊びを通して体験することが少ない。
- 86 夜の生活が親(大人)と同様になっている。我慢ができない。
- 87 学力定着について二極化がすすみ、分からない子どもはまったく分からないという状態になっている。
- 88 理解力の低下。女の子の友人関係が拡がりが少ないのが気になる。
- 89 極小規模校なので、子どもたちは自らすすんでの活動の力が弱い。言われた通りにする、とか、自分で考えて行動しない、など。

**7. 子どもの部活動やスポーツ少年団の活動において、特に問題だと感じることは何でしょうか(部活動の顧問でない方もお書きください。いくつでも選んでください)。(その他の回答)**

- ・まだ異動して日が浅いので、十分把握していない(小)
- ・身近にありません。(小)
- ・わからない(小)
- ・土曜日が休みになって日曜日のみならず、土曜日まであちこち(県外もあり)試合に行く事がおおく、子どもが疲れきっている。(小)
- ・友だち関係のかたより。少年団とそうでない子。(小)
- ・部活動指導者の微々たる手当、旅費などでの過重労働。(小)



- ・学校と顧問に負担をかけすぎ(中)
- ・児童生徒減(中)
- ・部活動が学校単位で行われる場合、学校への負担が大き過ぎる。学校の教員が全ての部活動の指導の専門家ではないので、専門外の部活動の指導は十分できない。これは子どもにとっても教員にとっても辛いことである。(中)

**8.7に関連して、部活動等に関する問題点について具体的な例をお書きください。**

- 小学校
- 1 土日大会があり、月よう日疲れを残す。
  - 2 日曜参観日より試合に出る。夜7～9時まで練習するので、とてもつかれている。言葉づかいが悪くと思えば、指導者の暴言の影響だった。
  - 3 子どもが色々な経験をすることは良いが、スポーツをすることが勝つことに目的が置かれると、楽しむことより子どもを追い立てることになっているのでは？子どもの自由な発想や創造的な遊びの時間が少なくなっている。
  - 4 少年野球の練習や試合のスケジュールが学校生活を圧迫しており、月曜日には疲れ切って登校してくる子どももいる。
  - 5 指導者(スポ少)が子どもに「ケツバット」をするという話をよく聞く。
  - 6 毎日遅くまでやる。休みがない。
  - 7 スポーツ少年団に入っている子どもが落ち着かない。
  - 8 スポーツ少年団では、とにかく「勝つ」ことが主眼になった指導がなされがちなので、学校の遊びや体育のゲームでもそれが出してしまう。
  - 9 終わる。れんしゅう時間が遅いので、食事や就寝時間などに影響している。子供は好んでやっていると思うが、疲れている(疲れが十分にとれていない)と思う。
  - 10 子どもたちの身体の発達を助けるプログラムであるべきだが、その視点がないため、勝つだけのための練習は、障害を助長しているようだ。
  - 11 くらくなるまで、連日やっている子ども会はどんなものか。冬になって寒くなくても大会がある。大会が多すぎるように思う。休むたびに大会があると、つかれを残して一週間がスタートしてしまう。
  - 12 小学校低学年の子がPM9:00までサッカーをしている。
  - 13 なし。
  - 14 休みがない。授業中ぐったりしている。行動のゆっくりな子を差別する言動がある。
  - 15 我が子が部活に入っていた時(高校)平日は7:00頃まで来たくは8:30休日は9:00～5:00頃まで。年中試合があり、その度に1万～2万位自己負担。月に4万位の時も。金銭的なことから、やめていく人もいた。
  - 16 夜まで練習をし、翌日疲れる。遠征等休日に多く疲れている。
  - 17 土日の練習遠征等で月曜日休みがちな児童の存在。児童の荒れた言動の一因として指導者の体罰、暴力があるのでは。
  - 18 子どもが気をつかったり、教師の性格(資質)によることもある。病み等成長期特有の病気があり、病院へ通うケース多い。
  - 19 朝7時から夜の7時8時まで練習や休みのない日数。こども達が休む間がない。
  - 20 いろんな児童がいてあたり前なのに、親の協力をあおいだり、異質な子どもをはい

じょしたりする。

- 21 夜9時まですることで、次の日の学習(授業)へ影響する。ねむたい、体がだらだら。
- 22 子どもにとって土日の練習はうれしいことだが、指導者(中高の先生)の負担が大きすぎる。手当、人員など。
- 23 学校や地域の行事との関連。優先順位をどう考えるか。
- 24 費用面で大会参加をあきらめざるをえないこともある。参加ヒなどが高い。指導者も先生も日数、時間面でムリがある。安全面での配慮、AEDなどの救命装置などがおかれていない(特に野球、ソフトでは必要では)。市町村によって公ヒ補助のしかたがちがう。良いところをみならって、公ヒアップしてほしい。
- 25 家庭学習ができにくい。少年団での力関係が学級にも入ってくる。
- 26 子どもがつかれている。ストレスがたまっていて、学校で発散している。
- 27 大会が近づくと練習もきびしくなり、体力的にもたない。心理的緊張 荒れにつながる。スポーツ少年団の中の間人間関係 弱い者いじめなど。
- 28 勝敗等だけにこだわらずに、指導者は自覚をもって子ども達に接してほしい(態度や言動等)。
- 29 打ちあげの時、子どももいっしょで夜遅くなり、次の日ぐったりしていることがある。
- 30 夜の練習(7:00~9:00)で就寝がおそくなる。土日の試合で疲れを残す。
- 31 教師の子どもに対する暴言。
- 32 子どもの成長のための部活になっているか?勝利至上主義にならざるを得ないジレンマ。
- 33 練習の始まりが、指導者の都合で7時か7時30分開始になるので、終了も自然と遅くなり、睡眠不足となり、朝もあくびが出たり、涼しい所へ行行って寝ころんでいる(朝から)子ども達もいる。授業中も集中力がなく忘れ物も多い。土日の疲れが全部月~金に表れている。どちらが本務かわからない時がある。そしてこの子ども会に、保護者や地域が過熱状態である事に非常に危機を感じている。
- 34 子どものしたい部活動がその学校にないため、他校区の学校へ行く。
- 35 ほとんど土日が試合にとられ、子どもがゆっくり休めない。月曜日は朝からあくび。少年団に行っている子とそうでない子のグループができ、遊びや友だち関係にゆがみがでている。
- 36 勝ちにこだわりすぎる。児童・生徒の育成のための活動となっていない(暴力・暴言があたり前となっている)。仲間・連帯意識の育成の場ではなく、「優勝劣敗」思想がうずまいている。
- 37 休日に登校して部活なんてやり過ぎ!!
- 38 スポーツ少年団の試合が日曜日にあった場合、次の日の月よう日は疲れが出て、授業に集中できない子が多い。
- 39 中学校(公立)は、教員・保護者共に、部活動中心に考えすぎる傾向があると思う。学校でという体制では、生徒のやりたい活動がかなり限定される条件になっている。学習と両立できる体制かどうか、意識も含め疑問。
- 40 指導が科学的ではない。長くやればうまくなるという指導。参加する児童・生徒が運営に参加できる体制がない(明徳の事件や苫小牧の件など、部員あるいは生徒会

声明などあるべきだと思う)。

- 41 土日祝日等休みなし。学校教育の一端であることへの理解が不十分。勝利主義。
- 42 休みの日も試合でつぶれ、年に1～2日しか休みがないのは人間的ではない。
- 43 練習のしすぎによる体の酷使。上下関係(技術の高低等による)。
- 中学校 44 練習時間が長く、生活、健康、学習面に悪影響を及ぼしている。
- 45 必要な場所に可能な力をもった教員がいない。いなくてもそれなりの成果を要求される。本当に必要なら、まず指導者を揃えることから。
- 46 指導者不足に起因して、教員の配置に無理、偏りが生じている。
- 47 市町村によって受けられる補助の差。練習がきつく、家庭学習ができない。お金がかかる。
- 48 経費の負担が部活担当の教職員には重くないだろうか。教師には代休があるが生徒にはない。専門の経験がある教師がいない時について、学校外からコーチを呼んでやるのが一般的にできないだろうか。
- 49 練習日数・時間が多い。子どもの身体・健康面で、やりすぎで故障する。大会のあり方について、教師への負担大。顧問の生活破壊。
- 50 中体連の質というか、教師の中にも縦の関係が横行しており(特に野球・バレー等)、“上のもののいうことは聞かなければならない”という感覚を子どもたちにも押し付けている(実体として)。練習や練習試合などの計画について、子どもの意見はとり入れられないケースが多い。
- 51 「やるからには勝てるチームに！」という気持ちから、ついつい熱が入りすぎ、生徒も教師も親も強迫観念じみたものを感じる。
- 52 指導者不足。生徒減。保護者ニーズの多様。
- 53 中学校での指導で技術指導ができなくなっている。生徒とのトラブルがおきる。
- 54 大会の数が多すぎる、「練習試合」を入れると「毎週・・・」のような気がする。
- 55 1日の練習時間が長く、家に帰ってからの生活にゆとりがない。当然家庭学習の時間も少なくなっている。遠征費、用具代、ユニフォーム等にかかる経費が多すぎる。
- 56 経験したことのない部活動を担当しなければならないこともあり、技術的な指導が難しい。練習と学習の両立。
- 57 子ども、指導者共、休息の時間が奪われている事。
- 58 学習時間と部活動、そして自分の自由な時間とのやりくりがむずかしいのではないか。
- 59 生徒の実態が見えないままに、部の活動枠に一方的に入れてしまうことがある。
- 60 学校によっては(中～高も含め)年中全く休みがなかったり、早朝・夜遅くまでの練習など、部活が生活の中心になっていることがある。
- 61 グランド等でそのままタバコを吸う人がいる。やじがきたない人がいて、子どもがそれを当然だと感じるようになっていく。
- 62 指導者にそのスポーツの経験がないが、押しつけられる 生徒にめいわくをかける。
- 63 生徒指導上の重要な位置を占める部分は多いが、民主的ではなく、「力」の指導が多い。

- 64 子どもが身体を休める日が少ない。主な大会以外の試合とかが多い。
- 65 時間的に過重な負担を強いていて、部活しかできないような生活になっている。朝練や夜遅くまで部活ばかりしては、心身共に健全に発達できないのではと懸念するが、部活顧問の権限が強い。

#### 9. 保護者の経済状況について、特に問題点だと感じることは何でしょうか。(その他の回答)

- ・集金が遅れがち(小)
- ・払えるのに払わない人(小)
- ・リストラ・転職による家庭生活の変化、子育ての困難さ(小)
- ・滞納ではないが、教材費などの負担をかけないように気をつけている。丸付けにつかうスペアインクやペンも教師の私費です。遠足バスの台数を二学年行き先をまとめ2台×2 三台へ(小)
- ・学級費等の経費の支払いがおくれがちになった。(小)
- ・少ないが、十分衣食住の足りていない子がいる。(小)
- ・失業していたり、仕事不安定だったりする家庭が増えたように思う。借金があったり。(小)
- ・保護家庭が多い。(小)
- ・就学援助を受けている児童が多い。(小)
- ・就学援助の子どもが増えている。(小)
- ・就学援助の子どもが増えている。(小)
- ・就学援助の子どもが増えている。(小)
- ・就学援助を受けている子が大変多い。(小)
- ・1～4のことはないが、厳しいなと思う。(小)
- ・地元の高校を志望する生徒がふえた。高卒後、就職を希望する生徒がふえた。(中)
- ・就学援助の受給率が増えた(申請する人が増えた)。(中)
- ・特に滞納が増えたわけではないが、経済的に苦しく、仕事がないため転出入したり、子どもを置いて仕事に出たりという家庭も多い。(中)

#### 10. 9に関連して保護者の生活・経済状況の実態について具体的な例をお書きください。

- 小学校
- 1 収入が少なく、生活に追われ、集金が遅れがちな家庭があった。
  - 2 一つの仕事が長続きしないので苦しい。お金の使い方に問題がある。
  - 3 現在勤務している学校の児童の保護者はあまり経済的に大変ではないが、他の学校では苦しくなっている保護者がいて、給食費等滞納している等の話を聞く。
  - 4 田舎なので、学年末には全て納めてくれるが、しばらく給食費を払ってくれなかった。仕事の状況はきびしくなっているようだ。経済的にも大変になってきているみたいである。
  - 5 毎月、給食費や学級費が納入されない家庭があった。
  - 6 確かに経済的に苦しい家庭も増えているが、就学援助を受けながらも、別のところへ支出し、集金等が滞る家庭がふえている。
  - 7 お父さんが失業中で集金がなかなか払えない家庭もあった。
  - 8 地域に働く場が少なく、収入の安定しない保護者がおり、子どもが集金袋を持って来られないことを気にしている。

- 9 スカパー、携帯あるのに500円の学級費を払わない。
  - 10 家庭内不和の話題が多くなったような気がします。経済もえいきょうしているのでは…。
  - 11 かなり厳しい状況の家庭も増えている。
  - 12 リストラ、転職の声を聞く。
  - 13 上記のようなことは、まだないが、失業中の親(両親共)が数名いる。
  - 14 仕事の関係で家庭訪問の日程などの調整が、以前のようにできなくなっている。
  - 15 家庭の収入が減ってきている一方、モラル的に親がその子どもを育てる義務をはたしていないと思える家庭がある。
  - 16 子どものことを見る余裕のない保護者も見られる。
  - 17 ここ2、3年で急速に悪化していることを、痛感している。子どもには、責任はないのだが、妹弟(赤ちゃん)のおもりをしたりで欠席したり、親の仕事を手伝ったりしているのかもしれない。実態ははっきりとは、わからない。
  - 18 昨年経済的な理由で修学旅行に行けなかった児童がいた。
  - 19 電話がはずされ、連絡がとれなくなる。離婚が増えた。
  - 20 パートの保護者が増えている。
  - 21 正社員でない保護者がふえている。
  - 22 保護者の職業が安定していなく、経済的に不安定な家庭が多くなっている。
  - 23 給料の格差(例えば車検代に当てたので給食費の支払いが遅れた)
  - 24 子どもは2人、(3人目は考えられないようだ。)知りあいからもらった服をダブダブでも大事に使っている。上の子のお下がり…少い枚数を大事にしている。
  - 25 経済的に大変な家庭が増えている。
  - 26 電話が時々だが通じない家庭がある。
  - 27 今年になってリストラが目立つ。保証人になって困っている。
  - 28 仕事がない。働き先があると、今度は、休みがとりにくい。
  - 29 保母が自分主体でことを進め、子どもが二の次になっていること。
  - 30 6の答えと同じ
  - 31 一家の働き手であるご主人の病気で収入が全くない状況になっている家庭がある。準要保護の認定が受けられなければ修学旅行は、欠席とのこと。離婚によって、母親が数人の子供さんを養育しているが、経済的にかなり厳しい状況。
- 中学校
- 32 様々な事情を抱えておいでだと思うのですが、大変協力的にいただいています。
  - 33 母子家庭等の経済的に困難な家庭も多く、生徒たちに厳しい状況が多くあるように思う。
  - 34 リストラや減給で生活が苦しいという例が増えている。離婚するケースも多い。
  - 35 まだまだしんどい。一人親家庭増。準要保護家庭増。
  - 36 仕事がなく働かず収入がない。
  - 37 生活苦による家庭崩壊や子育て放棄が目につく。
  - 38 教材費(給食費)なども払えない家庭が増えた。
  - 39 準要保護家庭が多くなっている。教材費、部活動の経費等、親の負担が多くなり、

パートの片親の収入だけでは大変な面がある。

40 年収が減り、又、共働であったが、一時的に一方はパート等もなくなり、学級費が数ヶ月滞納となる。

41 生活保護、要保護家庭が増えた。

#### 11. 今勤務している学校で取り組むべき課題を3つあげるとしたら何がありますか。

小学校

- 1 心豊かな子どもを育てる
- 2 基本的な生活習慣を身に付ける
- 3 学力
- 4 子ども同士の係わり合い
- 5 複式解消
- 6 生活習慣の確立
- 7 家庭学習の定着
- 8 学力保障
- 9 保護者と協力して子どもの基本的な生活習慣の見直し
- 10 今の教育のあり方についての問題点やこれからの教育について
- 11 子どもの遊びや食育について
- 12 今は良いが、将来、民主的 school 運営が続くか心配
- 13 今年赴任したばかりでまだよくわからない
- 14 学校、家庭、地域の連携による教育力の向上
- 15 子どもたちの基礎学力の定着
- 16 教育の資質、指導力の向上
- 17 多忙化解消
- 18 教育予算の増額
- 19 複式解消
- 20 したらよいことを精選して効率よく運営すること考える
- 21 学校と親のつながりを深めること。
- 22 異動したばかりなので、分からない。
- 23 授業を充実させる(行事が多いため)
- 24 複式に関する研究
- 25 基本的な生活習慣の確立のため保護者と協力する
- 26 おとなや教師はいじめなどないと思っているけれど、子どもたちの中にいじめをなくしたいと思っている者が以外に多くいたので、その思いをくみとる。
- 27 子どもの発達段階(学習面)に対応するために、教職員がある程度必要なので、確保し、個々の課題を明らかにしとりくむ。
- 28 児童の生活リズムの確立
- 29 学力向上
- 30 行事などの見直し
- 31 遊びの指ド

- 32 基本的な生活習慣を身につけさせる
- 33 基礎学力を身につけさせる
- 34 基本的な生活習慣を身につけさせる身につける(生活の振り返り)
- 35 学力の定着(基ソ基本をしっかり)
- 36 友達との関わり・障害児理解など
- 37 学力保障
- 38 親の過保護
- 39 児童・生徒の人間関係能力の育成
- 40 児童の学習に臨む意欲態度
- 41 基本的な学習習慣
- 42 親子で過ごす時間をとることを(対話)すすめる
- 43 夜は早くねて、朝早くおきる(ふつうの生活リズム)を育てる
- 44 子どもも家族の中の役割分担させるようにすすめる
- 45 父子家庭(祖母が食事の世話)の子どもが居るが、母親のいない淋しさを教師がどうするか。
- 46 学力保障、学習困難児への保障(支援)
- 47 人間関係を正常にするために、コミュニケーション能力を保障
- 48 学校集団づくり
- 49 児童にとっても、教師にとっても安心と信頼のもてる学校づくり
- 50 楽しい学習づくり(学びの場づくり)
- 51 学力の向上
- 52 基本的な生活習慣の大切さを家庭に理解してもらいいっしょに取り組む。
- 53 子どもの生活時間
- 54 食事の内容
- 55 学習規律
- 56 自分の考えをはっきり言える力、発表力
- 57 書く力(考えを書くことで述べる)、発表力
- 58 管理的な学校運営、体制
- 59 多忙化
- 60 保護者との共同
- 61 共通した子ども理解
- 62 他の職員への協力
- 63 話がきける子
- 64 自分の思ったことが言えるコミュニケーション能力
- 65 学習態度(学習規律)
- 66 家庭の意識改革や情勢の学習
- 67 忙しさの減少と社会情勢や未来について気がるに話せる職場づくり
- 68 (児童減のため)栄養士が引き上げになり、給食事務の多さに、大変であるし、食育を大事にとられるが、児童への栄養指導など手がまわらない。
- 69 栄養士さんのひきあげにより負担が一部の人に重くかかっている

- 70 年度当初学級PTAができなかった。日程のとり方のおかしさに気づいた時はおそかった。忙しすぎは言いわけにならない…。
- 71 公費負担の増額、要求(消耗品などの増額と、学級費負担の減少を)
- 72 行政、教委は、教育条件整備をきちんとすべき
- 73 就学援助費などの国庫負担の回復要求支給額を下げないようにする。
- 74 全職員がいっしょに取り組む、同じ姿勢で
- 75 不登校児についての取り組み
- 76 放課後の子どもの生活の保障。核家族。過疎化で近所に子どもがいない。学童保育の一層の充実。
- 77 子どもの生活が、大人の生活にまきこまれ、夜型になっている。
- 78 自分の要求をきちんと伝え、相手の話も聞ける子どもの育成
- 79 多忙の解消
- 80 心を育てる教育に力を入れる
- 81 学校・家庭との連携
- 82 教職員の多忙化の解消
- 83 子どもの学力と荒れ
- 84 教師にもう少しゆとりがあるとよい
- 85 問題をかかえた子どもが増えている。
- 86 教員や子どもたちのゆとりとは～多忙すぎる。
- 87 職場の仲間づくり
- 88 教師に心のゆとりがもてるような、取りくみを考えていかなければいけない。
- 89 心を育てる仲間づくりを進める
- 90 多忙化(教師の)をstopさせる。
- 91 職員の構成が変わったら、今取り組んでいることが取り組みなくなるかもしれない。
- 92 過そによる完全複式、そして休校廃校になる可能性が目の前にあること。
- 93 基本的な生活習慣
- 94 学力
- 95 教職員の和、協力
- 96 学力保障
- 97 不登校の克服
- 98 自治活動
- 99 生活習慣の乱れをどのように食い止めるか
- 100 少人数校での仲間づくり
- 101 基ソ学力の定着
- 102 とにかく多忙(全職員)なので…何についての「提起」なのかわかりませんが…
- 103 社会教育中心でなく、学校教育中心に、保護者に目を向けさせる手だてが大切。(参観日等で)
- 104 子どもの問題点を全体で話題にできるPTA関係を作っていくよう、学校の指導や助言が必要なのではないか？



- 105 地域との交流
- 106 自分の考えや思いを生き生きと表現できる児童の育成
- 107 人権(自分も他人も気持ちよく生きるために)
- 108 思いやりのある学校、思いやりのある友だち関係をどう育てるか。
- 109 学力の充実をどうはかるか
- 110 自然とふれあう機会をどう増やすか
- 111 基本的生活習慣の確立
- 112 家庭学習の定着
- 113 学力向上
- 114 自主性を育てる！
- 115 人権教育(同和教育)の過度の指導(ゼッケン登校、核心指導、子ども会等)
- 116 食育の大切さ、基本的生活習慣など、親に対する子育ての講座
- 117 地域との連携
- 118 学力向上
- 119 不登校対策
- 120 過保護対策
- 121 地域と一緒にあって、これから学校をどうしていくかを考える
- 122 職員研修を深めること
- 123 多忙化の解消
- 124 小規模校における学習、生活指導
- 125 地域とのつながりをどう広げ深めるか
- 126 学習内容の科学的検証
- 127 保護者の学校運営、学校教育への主体的参加
- 128 「かぎっ子」の対応、学童保育
- 129 不審者対策、校舎不法侵入防止策
- 130 学力向上
- 131 修学保障
- 132 教職員内の合意と、それをもとに責任をもった仕事への姿勢をそれぞれがもつこと。
- 133 基本的生活習慣・・・寝るのが遅い
- 134 自立心を育てる・・・大人が口を出し過ぎて、自立心が育たない
- 135 手伝いをする子に育てる・・・家の中で大人の手が足りているので手伝わず、生活力がついていない
- 136 職場の民主化
- 137 学校行事の精選
- 138 多忙化の解消
- 139 基本的生活習慣
- 140 自由な考えを育てる
- 141 自らとり組もうとする力の育成
- 中学校 142 自主的に活動できるように

- 143 学力の向上
- 144 家庭学習の充実
- 145 授業改善
- 146 生徒会活動の活性化
- 147 管理職問題(逆評価システムの確立)
- 148 保護者の声を学校に生かそうとしていない
- 149 子どもの自主性を認めようとしていない
- 150 教員の自主性を認めようとしていない
- 151 生徒の自主的、自立的活動を支援する
- 152 職員の自主性を尊重する
- 153 多忙化
- 154 子どもの居場所作り
- 155 学力保障
- 156 ゆとりのある学校づくり
- 157 学力向上
- 158 生徒の自治・仲間づくり
- 159 教職員の一致したとりくみ
- 160 保護者への信頼回復
- 161 教員の力量発揮を促す
- 162 生徒の自治活動
- 163 自主的な活動ができる力を育てること
- 164 実体験する学習を増やす
- 165 真に助け合う仲間づくり
- 166 何事も十分に論議し、全体を確認すること(共通理解)
- 167 全体(全員)で取り組むこと
- 168 気配り、思いやる心の欠如
- 169 学力向上
- 170 教職員資質向上
- 171 生徒確保
- 172 不登校生徒への対応
- 173 保護者と
- 174 基本的な生活習慣がついていない(小学校時代に)
- 175 生徒へしっかりした学力をつける
- 176 子どもの交わりの力を上げる 自治能力を高める
- 177 学力保障 進路保障
- 178 わかる授業
- 179 校長に教頭2人で管理職が多く、現場は多忙
- 180 殆どのが「企画」できまり、学年部に「下りて」くる
- 181 みんながパソコンを見つめて文書づくり…パソコンを使えないのは「私」だけになった

- 182 不登校
- 183 学力面
- 184 基本的な生活習慣
- 185 地域・保護者・教職員の協力しての子育て。
- 186 学力問題(低学力の克服)
- 187 基本的な生活習慣
- 188 仲間づくり
- 189 生徒の自治能力の向上を図ること
- 190 学習意欲、学力の向上
- 191 職場の自立
- 192 学力
- 193 生徒の自治力
- 194 校長の資質
- 195 校務分掌の不平等
- 196 クラスサイズ
- 197 教職員の合意に基づく協力体制
- 198 事務の「学校支配」のような状態
- 199 子どもたちに自治の力をどうつけていくか
- 200 学力向上

12. 「土佐の教育改革」について(その1:成果) 県教委は、これまでの成果として、「開かれた学校づくり等が機能し始めた」、教職員に子どもたちが主人公という意識が定着、教職員団体と県教育委員会の関係が、対立から協働へと変化、明確な目標を持った学校づくりの広がり、国公立大学進学者数が増加等をあげていますが、これに関してどういう感想をお持ちですか。

- 小学校
- 1 書類提出も多く、事務的な仕事に関わる時間が多い。
  - 2 確かに教育現場と地域が協力していく体制ができつつあり、よい面は評価する。しかし、現場では、目に見える評価のみに気をとられ、本質的に大切なものを失いつつあるのではないかと危惧を感じる。
  - 3 (教職員に子どもたちが主人公という意識が定着)については、教師ひとりひとりが子どもたちが主人公という意識を持ちたくても、持てない状況に置かれているのではないのでしょうか？それは、年々強まる管理教育、人事評価、多すぎる官制研修、雑事雑務で教師は自ら考えるエネルギーやゆとりを奪われているように思います。教師一人ひとりがもっと信頼され、自分たちが本当に実践したい教育のできる環境づくりが今一番大切だと思います。
  - 4 協働への動きが見られない。
  - 5 教職員の中に子どもたちが主人公という意識が本当に定着しているだろうか。ほんとうに定着しているのなら、学校づくりの取り組みはもっともっと進むだろう。子どもたちが主人公という「意識」は、子どもの権利条約や高知県子ども条例などに示されているように、子どもを未熟ながらも権利の主体として捉えることなくして、生まれないと思う。

- 6 「開かれた学校づくり等が機能し始めた」はいい事ではあるが、年間5～6回も夜の会に全教職員出席ということになると、大変である。多忙化になり、疲れもたまってくる。
- 7 一方で多忙化が進むことに疑問を感じる。
- 8 学校が開かれたら先生の多忙化は解消すると県教委は言っていたが、そのような実態は全くない。むしろ、多忙化は進んでいる。職員団体と県教委が協働へとシフトしてきていることはいいことだと思う。
- 9 成果としてあげられる ～ はあまり実感が無い。
- 10 成果をどう分析するかとかかわると思うけれど、数字で明らかにするというのも聞くけれど、教育はそういうことはなじまないと思う。現場での限界も感じている。
- 11 「協働」といいながら、大事なところは協働していない。
- 12 形だけで、それまで自然にできていたことが、こわされた気がします。残念だけど。
- 13 (明確な目標を持った学校づくりの広がり、国公立大学進学者数が増加)について、完全複式になってきて、児童の確保のため、明確な目標というより、特色を宣伝して児童が他の学校へ越境入学しないよう考えている。それでも25%が越境して近隣の小学校へ入学した。そのため複式解消できなかった。
- 14 「開かれた学校づくり等が機能し始めた」形式的で機能しているとは言えない状況にある学校が大多数。(教職員に子どもたちが主人公という意識が定着)一定の成果はあったが、果たしてどこまで定着しているのか疑問に思う。(教職員団体と県教委の関係が、対立から協働へ変化)本当の意味での参加が実現しているのか疑問だ。意見を聞けるような問題と、団体を除外してと仕分けをしているようでは、協働関係を望んでいるとは思えない。(明確な目標を持った学校づくりの広がり、国公立大学進学者数が増加)ほとんどが学校推薦枠が増えてのことではないでしょうか？大学の生き残り戦略ともうまく重なったの伸びだと思ふ。
- 15 (教職員団体と県教委の関係が、対立から協働へ変化)をたてに、一緒の場で話したからという理由から何でもかんでも現場に持ち込んできているように思う。そのために現場がしんどくなっているように思う。
- 16 進学率などで評価するのではなく、変化の激しい社会に対していろいろな取り組みで子どもたちをどう導き、どう変えていったのかで、学校の信頼を取り戻していけるかで計られるべきものではないかと思う。そのための環境づくりにとらえたい。
- 17 教員の資質・指導力について、どのようにとらえているのか疑問です。ここ何年か、夏期休業中なども、とにかく教員を勤務校の机の上にしぼりつけておくような(または一カ所に集めておしつけてくる)研修が多く、研修会への参加も自由にできにくい状況になってきているように思います(教師が豊かな見聞を広げる機会をうばってしまっている)。職場の中で学び合えるゆとり、自由に各自のテーマに基づく幅広い研修ができるようになればと思います。土日の自費で研修している教員も多いのに、ふだんの日も自費で本を買い、教材研究しているのが実態です。なぜ夏休みの自宅研修が認められないのか？
- 18 多様な価値観もある中、国公立大進学者数などを評価すること等が果たして妥当かどうか。

- 19 子どもたちが主人公という意識は、教職員はもともと持っている。委員会もそういうつもりで少人数学級を推進してほしい。
- 20 委員会の後援が付き、自主的な児童の課題に即した学習会が多く開催され、参加しやすくなり、力量を高める事につながっていると思う。（教職員に子どもたちが主人公という意識が定着）については、核となるべき校長や管理職の指導力や、教職員と一致団結して教育にあたっていく姿勢が重要だが、子どもに対しても教師の対しても『見えてない』管理職がいた。校長に対して話しても、資質の問題なのか、理解できていたのかできていないのか、明確な答弁や行動化は見られず非常に残念な結果だった。その学校の職員集団にも失望し、異動希望を出し、今年は他の学校へかわった。
- 21 県教委にとっては成果があったかもしれないが、教職員にとっては、自己目標シートや人事評価制度の導入など管理が強まり、多忙化が増した。
- 22 開かれた学校づくりが機能し始めたとは思わない。
- 23 「教育改革」というけれど、現場は日々、多忙化をきわめ、たいへんになっている。「人事評価」も導入され、書類も増え、精神的にも圧ぱく感がつのってくる。
- 24 本当に成果があったのかと思う。
- 25 （教職員団体と県教委の関係が、対立から協働へ変化）そうは思えない。
- 26 「土佐の教育改革」とは名ばかりで、現場の教師にとっては、何をどう改革したのかよく分かりません。もと、教師自体がゆとりを持って仕事ができる場を持つことができれば、子どもたちが主人公になれる。教師をしめつけていることが多く、そんな中では決して子どもは主人公にはなれない。
- 27 （「開かれた学校づくり等が機能し始めた」）に対しても、校長の姿勢によって、取り組み方が全く違うと開いたものも閉じてしまうことになる。現場は振りまわされるばかり。（教職員に子どもたちが主人公という意識が定着）ほんとうに子どもたちが主人公になっているのか疑問。教師の中にも意識がまったく変わっていない人もいる。（教職員団体と県教委の関係が、対立から協働へ変化）対立という感じはずいぶん薄れてきてよかった。
- 28 開かれた学校づくりは、社会人講師等による授業などは定着してきたと思うが、保護者との学校関係は遠くなっているように感じる。（教職員に子どもたちが主人公という意識が定着）については、勤務校では全教職員が意識して取り組んでいる。数値だけで学力を測れるものではないと思う（大切なものを見落としているように思う）。
- 29 子どもたちに関わる時間を減らさざるを得ないような提出文書などが増えたような気がする。説明責任ばかりに重きが置かれ、本来主人公である子どもたちに関われる時間が減らされている。
- 30 （「開かれた学校づくり等が機能し始めた」）については、できた程度で、機能し始めたとは言い難い。（教職員に子どもたちが主人公という意識が定着）については、土佐の教育改革が始まる前から、どの学校も追求してきたこと。（教職員団体と県教委の関係が、対立から協働へ変化）については、実感なし。賃金や人事評価など、労働条件に関することでは、県教委に押し切られっ放しという感じ。（明

確な目標を持った学校づくりの広がり、国公立大学進学者数が増加)については実感なし。

- 31 国公立大学進学者数が増加しているのは当然の事でしょう。現在、小学校でも力だめしや基礎学力に力を入れてとりこんでいます。教職員も時間外労働をして、必死で子ども達に力をつけようととりこんでいます。しかし、家庭の方はどうでしょうか。家庭学習どころか躰も十分できない家庭が増えている中で、学校の負担はかなり大きくなりました。学校のとりくみも大事ですけど、家庭の方で、もう少ししてもらおう事があると思います。学校は萬屋です。学校がこれだけ一生懸命(休みも返上で)やっているんですから、学力が上がってくるのは当たり前です。しかし、このままでは、教職員のストレスや精神的な病の人が増えてきます。教職員が健康な生活ができて初めて、子ども達も本当の意味で健やかに育つものだと思います。
- 32 人間の一番大切な、相手を思いやれる子どもや学校が増えているのだろうか、疑問に思う。管理職は高圧的な人が増え、子どもは、人のことより、わがまましほうだいの子が増えているのではないだろうか。
- 33 (「開かれた学校づくり等が機能し始めた」)地域の教育力や協力体制が以前よりあるところは「開かれた～」が無くても同様にやっている。高知市内等大きな町のみのことではないかと思う。しかし、単なる行事への協力等、主旨とは違った方向での活動協力になっているように思う。(明確な目標を持った学校づくりの広がり、国公立大学進学者数が増加)国公立大学進学者の増加は、経済的なものではないのか。今現在の状況を考えると、学力＝経済力というように思える。
- 34 理想や夢を持ちにくい社会で、少々うまく変わっていったって、先は暗い！
- 35 (「開かれた学校づくり等が機能し始めた」)外づらの良い学校づくりばかりが目立つ。(教職員に子どもたちが主人公という意識が定着)教職員の意識は確かに高まったが、現実にはさせられている仕事は子どものためにならないことが増えている。意識と現実の差は広がる一方。(教職員団体と県教委の関係が、対立から協働へ変化)何ともいえない。(明確な目標を持った学校づくりの広がり、国公立大学進学者数が増加)校長のリーダーシップのはき違えで、恣意的な学校づくりが目立つ。
- 36 雑務がどんどん増えて、ゆとりがなくなり、休み時間など子どもとの関わりが持たなくなっている。仕事をするのがあたりまえという感覚になっている。子どもの意見を尊重することが度を過ぎると、子どもに学ぶという感覚を持たせることができないのでは？
- 37 県教委がいつている成果のとおりだと思います。
- 38 傾向として、そう思える部分はあるが、県教委のおさえ方とは、ズレを感じる。
- 39 成果として上げられている点には疑問を感じます。
- 40 子どもの豊かな学びにつながってこそ、成果であって、現時点では何ともいえない。
- 41 大学へ行った子が大学生として大きな課題を感じる時、自分の力で生きぬいたり、創造したりして社会人として主体性の発揮できる、社会全体の子育ての見直しが必要と思う。そういう意味で”大学へ何人”も全否定はしないが、子どもが社会の”人材”では、教育はゆがむと思う。教育は人として育つことに全力投球すべきだと思う。

42 教育改革の名のもと県教委からの上意下達の感がする。学校が主体となった取り組み等が弱く実効力には疑問。

43 教育の資質・指導力の向上は一番大切な問題だと思う。しかし、自己評価の方法は大いに問題がある。

44 ~ の成果については、確かにある程度の成果が見られるように思います。

中学校

45 賛成

46 (「開かれた学校づくり等が機能し始めた」と (教職員団体と県教委の関係が、対立から協働へ変化)はあてはまると思いますが、 (教職員に子どもたちが主人公という意識が定着)は全く反対です。

47 (「開かれた学校づくり等が機能し始めた」)組織づくりがされているが、開かれているという実感はない。(教職員に子どもたちが主人公という意識が定着)少なくとも、今の職場では、子どもが主人公という意識は薄いと思う。(教職員団体と県教委の関係が、対立から協働へ変化)対立する必要はないが、言うべきことはきちんとと言ってほしい。特に、人斗に関して「世間の常識？」に流されていっているような気がする。(明確な目標を持った学校づくりの広がり、国公立大学進学者数が増加)一方で低学力の子も増えているのでは？

48 取り組みとしてはたいへん有意義な取り組みをしてくれている。その成果も多く感じられる。が教職員の多忙化は改善されておらず、定数改善等の対策が必要である。

49 中身はあまり変わっていないと思う。忙しくなりすぎて、じっくり検証できていない(学校では)。

50 (「開かれた学校づくり等が機能し始めた」)は全然ダメ。(教職員団体と県教委の関係が、対立から協働へ変化)はまだまは不信はある。

51 頑張っていると思う。現場も頑張っている。

52 開かれた学校づくり等が機能し始めたとあるが、本校では年に一回「地域・保護者・教師等」で話し合いを持っただけで、効果が上がっているとは思わない。「開かれた学校づくり」とめいうたなくてもできていると思う。

53 (「開かれた学校づくり等が機能し始めた」)に関しては、地域とのかかわりで教育を進めていく上では「開かれた学校づくり」の存在は大きいものがあります。しかし、(教職員に子どもたちが主人公という意識が定着)に関しては、果たして子どもたちが主人公という意識が定着しているとは思えません。教育実践そのものが、それを意識したとりくみになっているとは思えないからです。(教職員団体と県教委の関係が、対立から協働へ変化)についても、人事評価制度、異動、賃金等々の問題を見ても、対立から協働へ変化したとって成果といえるかどうか疑問に感じます。

54 県教委も組合等と話しあって施策を進めようという「ポーズ」をしはじめたことだけでも前進といえるが、「ポーズ」にとどまっている点が多すぎるのも事実。圧倒的多数が反対する施策を平気で行おうとする体質は変わっていない。もっと現場の声を聞き、現場の支援を本当の意味でできる組織にしていくべきではなからうか(教育行政の例が)。

55 「授業評価」で教員が「生徒の立場で考える」という傾向が生まれてきた。しかし、人

事評価システムで「有能」な教員と「ふつう」の人というような「個人的に評価」する面が強くなり、学校が集団として、子どもを育てているという面がうすくなった。「主任手当」なども、「私物化」が当たり前になってきている。職員会よりも「企画」の方が重要で、企画のメンバーは職員会で意見を控えよとされているらしい。

- 56 "子どもたちが主人公"という意識が定着してきているとは思いますが、教師の事務的な仕事の量が増え、子どもと関わる時間が減っていることや、多忙から教師自身、毎日がゆとりのない生活を送っていることに不満をもっています。しかし、組合活動もしにくくなり、労働条件や権利をいうことにうしろめたささえ感じるようになってきました(主張したところで何も変わらないし、自分だけではどうしようもありません。1人、2人分会の中では主張することで孤立感を感じ、活動しにくくなりました)。
- 57 成果として感じることは少ないですが、教職員の成績率導入は教職員の働きによくないと思う。
- 58 成績率による賃金、人事評価、来年度からの賃金体系の変更などの県教委の方針には賛同できません。学校現場にとってプラスになるようなことをしてほしいと思います。
- 59 少しずつ良い方向に向かい出した時に、人事評価制度、さらにはそれを給料にリンクさせる事は、逆行することになる。これまでの成果を壊さないためにも、この制度は止めるべきだ。
- 60 子どもが主人公との意識を持って教育にあたってきたのは、別に土佐の教育改革以降というわけではなく、数十年前の教職員の先輩方はもっとその意識を強く持って指導されていたように思う。
- 61 たしかに ~ (上記)の通りの成果はあったかもしれないが、それ以上に成績率や学校運営のあり方の変更(まるで会社)の影響が大きいと感じる。年齢が高くなればなるほど、そのしみを痛切に感じ、教育活動、仕事に意欲が持てない教員が増えているのでは。そして教師全体も、(もちろん自分自身も) <教育> の持つ深い普遍的な目的など考えず、自己研鑽に励むよりも、自らの保身や快樂の追求にのみ汲々としているのでは…。
- 62 あまり変わったような気がしない。
- 63 県教委の自己満足にすぎない部分が多い。現場感覚では、どれも成果と言えるにはほど遠い。
- 64 学校現場での"自由さ"が少なくなったように感じる。上からおりてくることが多い。

12. 「土佐の教育改革」について(その2:現状)県教委は、現状として 教育環境の悪化(構造的な経済不況、大人社会のモラルの混乱、地域の共同体意識の希薄化)、 学校間で改革の取り組みに温度差(開かれた学校づくり等)、 子どもたちの学習意欲の低さ、家庭での学習時間の少なさ、 中学校での学力低下(到達度把握検査結果が全国平均を下回る)、 高等学校での学力の底上げが不十分(大学進学者数は増加するものの中途退学率が高水準)、 いじめ、暴力行為、不登校などの発生件数が依然として憂慮される状況、をあげていますがこれに関してもどのような感想をお持ちですか。



- 小学校
- 1 子どもの背景には大人社会があると思います。子どもの手本にまず大人がなれる様、まずは私たち教師がチームワークを大切にして、学校を運営していく必要があると思います。すべて大人の責任でしょう。
  - 2 中学校の先生方も頑張っているが、それを超える教育環境の悪化により、なかなか指導が追い付いていない現状もある。なんとか家庭の教育力をつけていくために、行政から手を差し伸べていく必要性を強く感じる。勿論、教育現場でもチームワークのよい職場づくりをしていく必要がある。
  - 3 教育環境の悪化は、確かにそうですが、これを学校現場や教師、家庭に責任を全て押しつけてくるのはおかしいと思います。政治が教育にお金をかけないようにし、一部のエリートを育て、地方を切りすてる教育をすすめている現在の状況では、ますます親も教師も苦しまなければならないと思う。今こそ、この政治のまちがった方向を変えて、子どもたちが生き生きと学べる学校づくりに教師、親が力を合わせていかなければならない。
  - 4 の教育環境の悪化の中に「県教委の身勝手さ、信頼性の欠如」等もあげられると思う。県議会对策という見方もあるだろうが、CRTの情報集中や人事評価制度を査定昇級に活用するなど、県教委と現場の教職員との信頼関係はないに等しい。その原因の多くは、県教委がつくりだしており、この信頼関係なくして「土佐の教育改革」は成功したとはいえない。
  - 5 田舎ではあまりぴんとこない項目ではありますが、都市部では大変な状況だと思えます。これは、学校だけの問題にするべきではなく、社会が変わらなければならないと思います。そのために政治は何をすべきか、考えていってほしいです。
  - 6 成果主義、競争原理導入が社会全体を息苦しくさせている。子どもの学習意欲を高めるためには、教材研究をじっくりできる時間が必要だが、現状では勤務時間内で確保できない。大学入試制度の改善。子どもと教師がゆっくり触れ合える時間の確保。
  - 7 山間の学校では（教育環境の悪化）のえいきょうが大きいと感じている。文化にふれる機会も少ないので、心豊かにせまる教育がむずかしい面がある。特にテレビ文化にドブプリという感じを何とかしたい。
  - 8 その分析をきちんとしないと教師と学校の責任になる。そうならないようにしたい。
  - 9 現状の問題点の対処法の研究・研修の努力は一定評価できる。しかし、問題点の原因・要因となる諸施策を全国的にも率せんの立場で推しすすめている。
  - 10 これだけ日本の経済が不安定で生活が圧迫され、若者が仕事につけないのに、どうやって意欲を持つてというのか・・・と腹立たしいです。
  - 11 （子どもたちの学習意欲の低さ、家庭での学習時間の少なさ）について、家庭での学習時間は、低学年ほどできているが、高学年になった時、自学自習の仕方がわからない子が多い。本校ではここ数年取り組んできて、やや改善。（ところが、我が子で見ると、小中は部活をしていても、家庭学習も1～2Hはしていたが、高校になり激減。テストの前だけ1夜漬け。そんなので良い成績がとれる訳がない。）
  - 12 （教育環境の悪化）”風通しのよい職場を”などと言いながら、県教委の進めている施策は、職場を息苦しいものになっている。教育環境の悪化は、学校現場の管理

的、閉塞的状态を忘れてはならない。(学校間での取り組みに温度差)県教委自らに手だてへの反省なしに、学校現場の温度差を問題にするのはおかしい。温度差を産むような上意下達的な進め方であったことを反省すべきだ。(子どもたちの学習意欲の低さ、家庭での学習意欲の少なさ)(高等学校での学力の底上げが不十分)学力をどうとらえるかが問題だ。テストの結果や大学進学状況だけで他県と比べる一大変暴力的な話だと思う。経済面で優位にある県に勝とうなどという学力観は問題だ。いじめ、暴力行為、不登校などの発生件数が依然として憂慮される状況)土佐の教育改革が数値目標の達成などを言い出してから、増加に - と思うのだが、この数を減らすため、また不条理なことが現場へとおろされてきた。県教委は何をしているのか！！

- 13 (学校間での取り組みに温度差)については、忙しさに流され全部の現場が落ち着いて取り組めていない現状の中、パフォーマンス上手であったり、職員の昼夜、休日をとわないボランティアに行政がたよっていることを無視しているのではないか。(高等学校での学力の底上げが不十分)高校中退退学率は、経済効率から統廃合により地元を迎える高校がなくなっていっているところにもひとつの要因があるように思う。生徒指導の困難さ。
- 14 (中学校での学力低下)中学校入学時の私学受験という実態が長く続いているこの高知県で中学校の学力低下を言うのは酷ではないでしょうか。私学も調査したのでしょうか。高校の授業については、実態を配慮してなく、成績テストでおどしているだけのものもあるように思えます。(教育環境の悪化)については、マスコミ・文化状況に対する批判的な声をあげていくことが必要ではないでしょうか。人をバカにする文化がはびこりすぎ。教師・学校に関する報道も不公平。
- 15 県教委が(机上で?)考えるのと、現場とはひらきがあるように感じる。現実として、多忙化をますます感じているのにはなにが要因などか。人事評価や査定昇級などには問題はないのか。書類作りでおわれる体制や、学校事務の集合化、共同実施などで多忙化が職場に広がっていることを問題としてほしい。
- 16 学習しても将来に展望が持てない。子どもが意欲をもって生活するのはたいへん。
- 17 上の欄にも書いたが、こんなに教職員を馬車馬のように走らせて、追いたてているかぎり、教師のやる気も工夫も生まれてこなくて、いい実践ができるはずもない。「豊かな教職員集団の中で、自分の困っている事や指導のゆき詰まりを安心して相談し、全教職員の共通した一貫したサポートや協力の中で、ひとりの子どもの問題がみんなの問題になり、実践が進み深まっていき、教師のやる気のフィードバックされていきます。」評価も大事ですが、評価がすべてでは本当に大事な物が見えなくなります。
- 18 人事評価制度導入により、現状をよくすることはさらに困難になったと考えられる。
- 19 政治や経済的な基盤が豊かにならないと、すべての面でよくならないと思う。
- 20 きちんと子どもと向き合うための時間がないのに、教員がしなくてはいけないことばかりがふえている。
- 21 どれをとっても深刻な問題で、1人1人の教師、子ども、親ががんばっても追いつかないところもある。もっと社会全体が子どもを育てるということにお金も心も使わない

- と(ゆったりとした社会の中でしっかり育てる)ダメだと思う。
- 22 大人もモラルの低下はとても感じる(ゴミの投げ捨て、自分勝手な言動等)。子どもたちがなぜ勉強するのか、という事や将来の夢などがはっきりしていないから、学習意欲の低下につながるのではないかと感じる。
- 23 現状認識についてはほぼこの通りだと思う。ただ、問題の解決に数値目標をかかげて追求させたり、全ての責任を学校現場に転嫁することは許されないと思う。現場が頑張れるように、県教委は条件整備に全力を注ぎこむことを望みたい。
- 24 高知県の生活水準がとても低いというか高収入の家庭が少ないと思います。仕事が無く、社会や大人の責任である事が子どもの学校生活にまで影響を与えている現状…。やはり高知県独自の方針を打ち出して、このような内容について取りくんで行く必要があると思います。
- 25 地教委、県教委の人事異動が本当に公正に行われているのだろうか。えりを正すのは行政に働いている人たちではないだろうか。
- 26 (子どもたちの学習意欲の低さ、家庭での学習時間の少なさ)の現状は、実際その通りだと思う。高知県のこれからの学力向上への取り組みは家庭学習時間を定着させることであると考えている。
- 27 教育環境というより、社会状況が悪化していると思う。安心して社会に送り出せる、そういう社会を作ることがだいじ！！
- 28 現状認識としては正しい。しかし、その背景がまともに理解されておらず、見当違いの対策ばかりが強引に繰り広げられ、現場は苦しみ、子どもは萎縮し、保護者の学校不信は拡大している。最も憂慮すべきことは、小学校卒業段階での燃え尽き。「学力向上」のために、正規の授業以外でもドリル学習等でガンガン鍛えられ、他方では「開かれた学校づくり」のために、地域とかかわる行事がやたらに増えて、自分の頭で主体的に考えて物事に取り組むゆとりがなく、ただ「やらされる」だけ、まるで意欲を失っている。これでは中学校が荒れるのは当たり前。校種を問わず、不登校が増えるのも当たり前。
- 29 各学校の職場構成(年齢・男女)に配慮を！
- 30 あると思う。
- 31 教育環境の悪化の中に、親の教育力の低下がみられる。
- 32 その通りだと思う。金をかけない改革には限界があると思う。県独自でできることの限界もあるかもしれないが、教員の健康破壊にもつながっている多忙化(教育委員会を含め)を何とかしていかないことには、血の通った改革にならない。文書が増えているのもどうかしてほしい。
- 33 これはすべてその通りだと思います。子どもたちの生命や健全な育ちをサポートできる社会、学校、大人でありたいと思っていますが…。
- 34 極端な二分化を感じます。親の経済状況 = 学力保障という公式がかなり見えはじめ、今後が大変憂慮されます。
- 35 地道な教育懇談、子育て懇談などを学校があるいは市民運動として取りくみながら、子どもを大人が責任をもって育てていくつとめをはたしたい。その大前提は、政治・行政の政治不介入。要求される制度のあり方や改善に、行政はしっかりとときき

入れ、それらの声に応えていくべき。現在の高知のやり方は、県教委や県教委おすみつき委員などが、事務局の提案する事案をこえて議論しないなど、とざされている。県教育行政は、もっともっとしんしに開かれるべきだ。

36 現状には理解できる。学校間にもよるし、社会の状況をふまえた取り組み等が必要である。

37 家庭の教育力が低下している現状がとても心配だ。その子達は、将来に対する夢ももちにくく、前向きに生活しにくいだろう。類は友を呼ぶで、周囲の見本となる大人が少ないであろう(たぶん)ということも原因だと思う。

38 多くの問題についてはそのつど対処してきていますが、その際に気になるのが、話を聞いたり、話をする時間的ゆとりがなさです(カリキュラムの過密化、小規模校においては職員の少なさなどから)。これだけいろいろな問題をかかえている今日、職場内にゆとりや協力体制があることがなによりも大事だろうと思います。それを妨げているのが、提出文書の多さや給与への成績率導入などです。改善が必要です。

中学校 39 第2期の6つの柱の中に、「特別支援教育の推進」とあるが、成果・現状・課題のいずれにもその点についてふれられていないように思います。

40 (中学校での学力低下)私立に抜ける(高成績の生徒)ためと、部活による生徒指導・進路指導が幅をきかせているせいで、高知は中学生のCRT結果が低いのだと考える。

41 CRTへの注目が高まりすぎて、正直恐ろしいです。

42 どれも一言では語れない。国の根本のところできく針路をまちがえているから、当然の結果のようにも思える。

43 経済的に、また教育課程の方面でも、ゆとりがほしい。

44 学校が真に主体性をもって自由に取り組めるように、多忙化の解消はもとより、調査等の縮小など具体的に改善すべき。人事評価は学校の間人関係をゆがめるもの、見直してほしい。

45 生徒の生活環境の悪化(家庭内の事情)で、情緒不安定の生徒が増え、学習環境も悪化していると思われる。県教委の総括はきれいごとのように思える。

46 多くが学校では解決できない問題である。

47 教育予算の確保が一番。

48 現状はその通りだと思う。

49 ここに並べられたような現状はあると感じています。だから、それに対するとりくみはどうかというと、どうしてもコテ先だけのもののように感じられます。教職員の集団の力を分断するような方向をとろうとしたり、予算をかけなかったり、です。これではますます解決は困難でしょう。

50 (中学校での学力低下)これについては、現状、成績上位者が私立中や附属、県立中に抜けている点を見逃した議論だと考える。むしろ中1 中2 中3と低下しているなら、問題があるが、そうでないわけだから。そしてCRTそのものの問題点は全く議論となっていない。不登校、いじめ他教育問題の多くは、今の社会情勢の「荒れ」が根底にある。がんばったら家庭を持ち生活できる展望が持てないのが一番根底にあると思う。

- 51 中学3年を教えているが、まだ「小学生」の気分で「自立」できていない。休み時間も保育園のようにかけずりまわっている。チコク・欠席・不登校が多い。10 / 37が休む日が多かった。集金や提出物が揃わない。母子・父子家庭が多く、家庭で子供が「ふつう」の生活ができていない。
- 52 社会全体が忙しく、親にも子どもと接するゆとりがなくなっている。子ども部活動等で下校後の家での時間が少なく家庭学習等にじっくりとりくむ時間もなくなっている。親の仕事が不安定で、定収入の家庭が多くなり、子どもの教育に関心をもてる状況ではないのではないかと。教育の格差を強く感じるようになりました。
- 53 30人学級や教職員定数の増加などが実現すれば、1人1人の子どもへ行き届いた教育や、教材研究などが、もっとできるようになると思います。
- 54 (教育環境の悪化)については、自由化により、格差が広がり(経済的)、世の中の乱れが大きくなっているのは事実であると思う。政治的解決が必要なのでは。(学校間での取り組みに温度差)まだまだ敷居の高い学校が多い。保護者は多くの要求を持っているが、言う場がないようだ。(子どもたちの学習意欲の低さ、家庭での学習時間の少なさ)経済的に行き詰まった現在、もはや詰め込み教育は無理。継続だった意欲が出るような学習指導要領が必要。に同じ。(いじめ、暴力行為、不登校などの発生件数が依然として憂慮される状況)幼少の頃の遊び等による人間関係の希薄さ。
- 55 教育の機会均等の原則が崩れつつあることが一番の問題と感じる。地方の財政に全てが押しつけられ、経済的に豊かな地域とそうでない地域では、子ども達の受ける教育設備・環境の格差が大きく、それがどんどん広がりつつある。そのことと、経済不況が重なって、子どもたちの学習意欲を向上させることが益々困難であるように思う。せめて、義務教育の範囲内ではどの子どもも同じように豊かな教育環境を保障する国の最大の責任ではないか。
- 56 別の意味での教育環境の劣悪化を感じる。教師は自分で考えることをせず、競争等々のルールの上をひたすら走らされるようになってきていると感じる。
- 57 その通りだと思うが、そのための対策には力を入れていないように思う。口で言うだけでなく、人的、金銭的な対応が必要であると感じる。
- 58 新しい人事評価制度の一環として第1票評価、第2評価者への逆評価の制度を実施すべき。横暴で公平な評価のできない校長に教員も生徒も苦しめられています。
- 59 県教委の姿勢こそが問題。学校の教職員が自由な発想でのびのびと、ゆとりをもって教育できる環境作りこそ、今求められていると思う。
- 60 高知県の中学校の生徒指導はもっと重点的に取り組むべきではないかと、前の職場(旧香美郡)では、よく耳にしました。いろいろと事情はあるでしょうが、避けずに議論を深めて、温度差をなくしていくべき。

## 2. アンケート調査用紙

### 検証・「土佐の教育改革」子どもに関する実際調査

2006年4月  
高知県国民教育研究所  
所長 梅原憲作

#### 本調査の目的とお願い

新年度を迎え大変お忙しい時期と存じます。「子どもが主人公」をスローガンとして始まった「土佐の教育改革」も10年目を迎えました。高知県国民教育研究所(高知民研)としても、当初よりその動向に関心を寄せ、研究を行ってきました。今回、土佐の教育改革の検証時期を迎えるに当たり、高知民研として、子どもに視点をあて、この間の子どもの実態を独自に調査することにしました。お忙しい時期ではありますが、下記のアンケートにご協力いただきますようお願い申し上げます。集計結果はお返しします。締め切り4/21。

以下の質問について、あてはまるものに をお願いします。、自由記述にもお答えください。

#### 1. あなたの勤務校は

1 小学校 2 中学校 3 高校 4 盲・ろう・養護学校 5 その他( )

#### 2. 学校の所在地は(県立、盲・ろう・養護学校の方もご記入ください)

1 幡多 2 高岡 3 吾川郡 4 高知市 5 土長 6 旧香美郡 7 安芸

#### 3. あなたの職種は

1 校長 2 教頭 3 教員 4 養護教員 5 学校事務職員 6 実習助手 7 現業職員  
8 栄養教諭、学校栄養職員 9 寄宿舍指導員 10 その他( )

#### 4. あなたの年齢は

1. 10歳代 2. 20歳代 3. 30歳代 4. 40歳代 5. 50歳代 6. その他( )

#### 5. あなたが、最近の子どもの実態において、特に問題だと感じることは何でしょうか。 3つ選んでください。

1 学力面 2 授業態度 3 不登校 4 部活動(加入や活動の状況、指導等)  
5 児童会・生徒会・自主活動(積極的な活動となっているか) 6 非行や暴力  
7 友人関係 8 遊び 9 持ち物 10 基本的な生活習慣 11 食事 12 体力健康面  
13 家族関係 14 保護者の経済状況 15 塾 16 特にない  
17 その他( )

6. 5に関連して、子どもの実態について具体的な例をお書きください。

7. 子どもの部活動やスポーツ少年団の活動において、特に問題だと感じることは何でしょうか（部活動の顧問でない方もお書きください。いくつでも選んでください）。

- 1 練習日数・時間
- 2 指導者の資質
- 3 指導方法
- 4 体罰や暴力、暴言など
- 5 子どもの身体・健康面
- 6 授業や学習への影響
- 7 大会のあり方
- 8 保護者の協力方法
- 9 経費(会費、遠征費、用具代など)
- 10 特にない
- 11 その他( )

8. 7に関連して、部活動等に関する問題点について具体的な例をお書きください。

- ・
- ・
- ・

9. 保護者の経済状況について、特に問題点だと感じることは何でしょうか。

- 1 授業料の滞納が増えた
- 2 学級費などの滞納が増えた
- 3 給食費の滞納が増えた
- 4 修学旅行などで、経済的な理由による欠席が増えた
- 5 特に変化はない
- 6 その他( )

10. 9に関連して保護者の生活・経済状況の実態について具体的な例をお書きください。

- ・
- ・
- ・

11. 今勤務している学校で取り組むべき課題を3つをあげるとしたら何がありますか。

- ・
- ・
- ・

裏面に続く

## 12. 「土佐の教育改革」について右側にご意見をお書きください。

土佐の教育改革に関するの県教委教育政策課の参考資料

経過

- 1995 知事が2期目の選挙公約のトップに挙げる
  - ・県民の公教育への不満（学力対策、教育行政の閉鎖性、県教委と教職員団体との対立等）
- 1996 「土佐の教育改革を考える会」で県民的な議論・提言
  - ・保護者、学校関係者、教職員団体、企業経営者、マスコミ等 33 名で議論・提言

### 【1997～2001 第1期土佐の教育改革】

《主な3つの柱》 教員の資質・指導力の向上、子どもたちの基礎学力の定着と学力の向上  
学校、家庭、地域の連携による教育力の向上

- 2001 「土佐の教育改革フォローアップ委員会」で第1期の「検証と総括」を実施
  - ・開かれた学校づくりや授業評価システムなど新たな取組みで、学校が変わったなど一定評価
  - ・一方、基礎学力の定着などに更に取り組み必要がある、家庭と地域の教育力の再生・向上を大きな柱で取り組むべき、豊かな心を育む教育など新たな課題にも取り組む必要がある。
- 「第2期土佐の教育改革を考える会」で議論・提言
  - ・保護者、学校関係者、教職員団体、企業経営者、県議会議員、マスコミ等 34 名で議論・提言
  - ・基本理念を策定
    - 郷土を愛し世界にはばたく、心豊かでたくましく創造性に満ちた子どもたちの育成

### 【2002～2006 第2期土佐の教育改革】

《6つの柱》 子どもたちの基礎学力の定着と学力の向上、教職員の資質・指導力の向上  
特別支援（障害児）教育の推進、豊かな心を育む教育の推進  
家庭・地域の教育力の再生・向上、学校・家庭・地域の連携の強化

これまでの成果

- ・地域や学校で教育課題を解決していく仕組み（開かれた学校づくり等）が機能し始めた
- ・教育関係者の意識が変化 ・教職員に子どもたちが主人公という意識が定着
- ・市町村教育委員会の自主的な取り組みが増加
- ・教職員団体と県教育委員会の関係が、対立から協働へ変化
- ・明確な目標を持った学校づくりの広がり、国公立大学進学者数が増加等

現状

- ・教育環境の悪化（構造的な経済不況、大人社会のモラルの混乱、地域の共同体意識の希薄化）
- ・学校間で改革の取り組みに温度差（開かれた学校づくり等）
- ・子どもたちの学習意欲の低さ、家庭での学習時間の少なさ
- ・中学校での学力低下（到達度把握検査結果が全国平均を下回る）
- ・高等学校での学力の底上げが不十分（大学進学者数は増加するものの中途退学率が高水準）
- ・いじめ、暴力行為、不登校などの発生件数が依然として憂慮される状況

課題

- (1) 改革の成果の明確化 (2) 改革10年目（2006年度）に向けた総括
- (3) 2007年度以降の方向付け

対応

- (1) 今後2年間（2005～2006年度）の取り組みを重点化
  - 1) 徹底した学力向上対策（基礎基本の徹底と主体的な学びの獲得）  
わかる楽しい授業の創造 連携教育の推進 家庭・地域ぐるみ教育の推進  
効果的な教員配置
  - 2) いじめ、暴力行為、不登校、中途退学等への予防的視点からの取り組み  
生活習慣や学習面でのきめ細かな支援  
子どもたちの発するサインを見落とさない体制づくり  
温かい雰囲気のある学級、学校づくり
  - 3) よりよい教育環境づくり  
就学前の保育、教育の充実 子どもたちの多様なニーズに対応できる学校づくり  
教育を支える人材の育成 子どもたちに向き合う教育風土づくり
- (2) 専門家や県民の力を借りた改革10年間の総括と、それ以降の方向付けの策定



県教委は、これまでの成果として、「開かれた学校づくり等が機能し始めた」、教職員に子どもたちが主人公という意識が定着、教職員団体と県教育委員会の関係が、対立から協働へ変化、明確な目標を持った学校づくりの広がり、国公立大学進学者数が増加等をあげていますが、これに関してどのような感想をお持ちですか。

県教委は、現状として、教育環境の悪化（構造的な経済不況、大人社会のモラルの混乱、地域の共同体意識の希薄化）、学校間で改革の取り組みに温度差（開かれた学校づくり等）、子どもたちの学習意欲の低さ、家庭での学習時間の少なさ、中学校での学力低下（到達度把握検査結果が全国平均を下回る）、高等学校での学力の底上げが不十分（大学進学者数は増加するものの中途退学率が高水準）、いじめ、暴力行為、不登校などの発生件数が依然として憂慮される状況、をあげていますがこれに関してどのような感想をお持ちですか。

ご協力ありがとうございました。同封しました封筒又はFAXで088(823)2355までお送りください。

**「検証・『土佐の教育改革』子どもに関する実態調査」の結果と分析**

発行 高知県国民教育研究所（所長・梅原憲作）

発行日 2006年10月1日

連絡先 〒780-0850

高知県高知市丸ノ内2-1-10 高知城ホール内

電話 088-822-4135

FAX 088-823-2355

メール [kochikenkyouso@mb2.seikyou.ne.jp](mailto:kochikenkyouso@mb2.seikyou.ne.jp)